工　事　仕　様　書

Ⅰ　工　事　概　要

1．工　事　場　所　　大分県

2．敷　地　面　積　　㎡

3．工事建物の概要

1）建　物　名　称

2）構　造　・　階　数　　（一部　　造）、地上　　階建、地下　　階、ＰＨ　　階

3）延　床　面　積

4）耐　火　建　築　物　　・耐火建築物　・準耐火建築物　・その他

5）付　属　建　物

4．工　事　種　別　　・新築　・増築　・改築

5．工　事　内　容　　・建築工事

・外構工事

・撤去工事

・設備工事

Ⅱ　建築工事仕様

1．共通仕様

（1）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）」（以下、「標準仕様書」という）による

（2）電気設備、機械設備工事の工事仕様書は別図による

2．特記仕様

（1）項目は、番号に ⊙ 印の付いたものを適用する

（2）特記事項は、⊙ 印の付いたものを適用する

⊙ 印の付かないものは、※印の付いたものを適用する

⊙ 印と ⊗ 印の付いた場合は、共に適用する

（3）特記事項に記載の（　．　．　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図、又は当該表を示す

（4）Ⓖ 印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（以下、「グリーン購入法」という）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(令和4年2月25日変更閣議決定)」に定める特定調達品目における判断の基準(特定調達品目「公共工事」においては表１中の品目ごとの判断の基準)を満たすものを示す

（5）関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触するおそれがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること

（6）形状寸法の単位は特記なきかぎりミリメートルとする

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	1 適用基準等	・建築工事標準詳細図（令和４年版） ・建築構造設計基準及び参考資料（令和３年版） ・構内舗装・排水設計基準及び参考資料（平成31年版） ・敷地調査共通仕様書（令和４年版） ・ ・
	2 法令等の適用区分	施工計画書で工法を定める場合の風圧力の計算　(1.1.2) 風圧力　風速（ Vo ＝　　）m/s 地表面粗度区分（ ・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ ） 積雪荷重　平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域　別表（　　） 適用工種 ・ＡＬＣパネル(外壁、屋根)　・押出成形ｾﾒﾝﾄ板(外壁)　・外壁石張（乾式） ・長尺金属板葺　・折板葺　・アルミ笠木 ・ガラスブロック　・シート防水(機械式)　・屋上緑化システム ・（　　）
	3 別契約の関連工事	施工範囲　図示による　(1.1.7) 施工図等　設備機器の位置、取合い等が検討のできる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける
	4 電気保安技術者	※適用する　(1.3.3)
	5 施工条件	※標準仕様書1.3.5(1)以外の施工条件については、現場説明書による　(1.3.5)
	6 発生材の処理等	※現場説明書による　・構外搬出適切処理　(1.3.11)
	7 設計ＧＬ、ＢＭ	※図示による
	8 既存部分等への処置	(1.3.12) 工事施工に際し、既存部分を汚染又は損傷した場合は監督職員に報告するとともに承諾を受けて原状に準じて補修する
	9 環境への配慮	(1.4.1) 本工事の建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するとともに、次の１）から４）を満たすものとする １）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボードその他の木質建材、ﾕﾘｱ樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、ｱﾃﾄﾘｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する ２）接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する ３）接着剤は可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する ４）１）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次の通りとする 規制対象外品 ①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 第三種品 ①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ②建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 石綿含有建材 本工事に使用する材料については、石綿を含有しないものとする
	10 材料の品質等	(1.4.2) (1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする (2) 商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける (3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする (4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない ① 品質及び性能に関する試験データを整備していること ② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること ③ 安定的な共有が可能であること ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること ⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること (5) 製造業者に関する資料の提出を求める材料 ・床型枠用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材、押出成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材、セラミックタイル、既調合モルタル、既調合目地材、ルーフドレン、吸水調整剤、防水剤、アルミニウム製建具（コンクリート系下地及び鉄骨下地）、樹脂製建具（コンクリート系下地及び鉄骨下地）、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類、クローザ類、自動ドア機構、自閉式上吊り引き戸機構、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、ガラス、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、可動間仕切、移動間仕切、トイレブース、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、トップライト、ポリマーセメントモルタル、鋳鉄製ふた ・
	11 化学物質の濃度測定	(1.5.9) 施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン スチレンの濃度を測定し、監督職員に報告すること 測定はパッシブ型採取機器により行う ・図示　・下表による 測定対象室 ／ 室　名 ／ 測定箇所数 注）測定パッジはホルムアルデヒド用と、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン用の2種類を用いる
	12 技能士	(1.5.2) 適用工事種種類 ／ 職　種 ／ 技能検定の作業の種別 仮設工事 ／ とび ／ ・とび作業 鉄筋工事 ／ 鉄筋施工 ／ ・鉄筋組立て作業 コンクリート工事 ／ 型枠施工 ／ ・型枠工事作業 コンクリート圧送施工 ／ ・コンクリート圧送工事作業 鉄骨工事 ／ 鉄工 ／ ・鋼構造物鉄工作業 コンクリートブロック ／ ブロック建築 ／ ・コンクリートブロック工事作業 ＡＬＣパネル及び押出成形セメント板工事 ／ ＡＬＣパネル施工 ／ ・ＡＬＣパネル工事作業 防水工事 ／ ・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業 石工事 ／ 石材施工 ／ ・石張り作業 タイル工事 ／ タイル張り ／ ・タイル張り作業 木工事 ／ 建築大工 ／ ・大工工事作業 屋根及びとい工事 ／ 建築板金 ／ ・内外装板金作業 スレート施工 ／ ・スレート工事作業 金属工事 ／ 内装仕上げ施工 ／ ・鋼製下地工事作業 建築板金 ／ ・内外装板金作業 左官工事 ／ 左官 ／ ・左官作業 建具工事 ／ サッシ施工 ／ ・ビル用サッシ施工作業 ガラス施工 ／ ・ガラス工事作業 自動ドア施工 ／ ・自動ドア施工作業 カーテンウォール工事 ／ ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事施工 ／ ・金属製カーテンウォール工事作業 サッシ施工 ／ ・ビル用サッシ施工作業 ガラス施工 ／ ・ガラス工事作業 塗装工事 ／ 塗装 ／ ・建築塗装作業 内装工事 ／ 内装仕上げ施工 ／ ・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業 表装 ／ ・壁装作業 排水工事 ／ 配管 ／ ・建築配管作業 舗装工事 ／ 路面標示施工 ／ ・溶接ペイントハンドマーカー工事作業 ・溶接ペイントマシンマーカー工事作業 植栽工事 ／ 造園 ／ ・造園工事作業 ※技能士は、職業能力開発促進法による一級技能士又は単一等級の資格を有するものとする ※鉄工技能士は、現場溶接を指定する場合、若しくは現場溶接を行う部分が構造耐力上主要な部分に及ぶ場合に適用する
	13 工事写真等	※標準仕様書1.2.4(4)により整備する工事写真については次による 『営繕工事写真撮影要領（平成28年版）による工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編　令和5年版』国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
	14 完成図等	(1.7.1～3)（表1.7.1) ※作成する　・作成しない 提出部数は現場説明書による
	15 文化財その他の埋蔵物	(1.1.12) 文化財保護法第94条による届出対象区域 ・対象区域内　・対象区域外 上記対象区域内外における試掘調査等に必要な資材及び労務等を提供すること
	16 火災保険等	工事目的物および工事材料等について次により保険に付す ・火災保険　※建設工事保険
2 仮設工事	1 監督職員事務所	(2.3.1) ・ 設ける ※ 設けない 面積規模（ ・10　・20　・35　・65　・100 ）㎡ 程度 備品（）内は数量：・机（　）　・いす（　）　・打ち合わせ机（　） ・書棚（　）・パソコン（　） ・プリンター（　）　・電話（　）・ＦＡＸ（　） ・　（　） 監督職員事務所の仕上げ 部位等 ／ 仕上げ 床 ／ 合板張り又はビニル床シート張り 内壁、天井 ／ 合板張り又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルションペイント塗り 屋根 ／ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り
	2 工事用水	構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
	3 工事用電力	構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
3 土工事	1 埋戻し及び盛土	(3.2.3)（表3.2.1) 材料及び工法　材料（　　）　工法（　　） ※標準仕様書 表3.2.1による ・A種　施工箇所（　　） ・B種　施工箇所（　　） ・C種　施工箇所（　　）　土質（　　）　受渡場所（　　） ・D種　施工箇所（　　）
	2 建設発生土の処理	(3.2.5) ※ 現場説明書による ・ 構外指示の場所　受入施設名（　　） 受入場所　（　　） 受入場所での処置（・敷きならし　※たい積 ） 搬出距離　（　　）km 処分費　・有償　※無償 上記に示す受入れ場所・距離は参考であり、実施にあたっては監督職員と協議のうえ決定する ・ 構内指示の場所（・敷きならし　・たい積 ） ・ 構外搬出適切処理(搬出調書等を提出する)

年　度	設計年月	工事名	建築士法第20条第１項に基づく表示	図　面　名　称	縮　尺	Ｎｏ．
		R8.5		特記仕様書（その１）		

4 地業工事

1 地盤調査の結果

調査位置、柱伏図、地層構成、地下水位
・ 図示による（　　）　・

2 支持地盤

・ 杭基礎　(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4、5)(4.4.4)(4.5.5、6)
支持地盤の種類及び位置（基礎杭の先端の位置含む）
・ 図示による（　　）　・
・ 直接基礎
支持地盤の種類及び位置（基礎底部の位置含む）
・ 図示による（　　）　・
長期設計支持力度
・（　　）kN/m2　・
試験堀（根切底）による支持地盤の確認　(3.2.1)
・ 行う　試験の位置、方法等は図示による（　　）　・ 行わない
地盤の載荷試験　(4.2.4)
・ 行う　試験の位置、方法等は図示による（　　）　・ 行わない
報告書の記載事項

3 既製コンクリート杭事業

種類　(4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)～(4.3.6)(4.3.8)
・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・ 外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
SC杭の鋼管材料　・ SKK400　・ SKK490
・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・
試験堀
・ 行う
孔径はオーガー径とする　位置及び長さは図示による（　　）
試験堀の施工は試験杭の施工に先立ち行う
・ 行わない
支持層の確認
各種杭地業においては、掘削した土砂と発注者から提供される土質標本及び設計図書との照合を行い、支持層を確認すること
杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分（種別）、寸法、継手の箇所数等　(4.2.2)(4.3.3)

		種類 種別	ｺﾝｸﾘｰﾄ強度 (N/mm2)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	長期設計支持力 (kN/本)
試験杭	上杭						
	中杭						
	下杭						
本杭	上杭						
	中杭						
	下杭						

試験杭の施工　※ 本杭の施工に先立ち行う　・
試験杭の位置、本数　※ 最初の一本　・ 図示による（　　）
施工方法　(4.3.2)
・ セメントミルク工法　(4.3.4)
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ
・ 図示
杭の支持地盤への根入れ長さ
・ 図示
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・ 杭径の1/4かつ100mm以下　・
建て込み時の杭の鉛直度
・ 1/100以内　・
・ 特定埋込杭工法　(4.3.5)
・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
α＝250を採用できる工法　図示による（　　）
・ 上記以外の特定埋込杭工法　図示による（　　）
工法
・ プレボーリング拡大根固め工法
・ 中堀り拡大根固め工法
・
杭周固定液工法
・ 使用する　・ 使用しない
杭の支持層への根入れ深さ
・ 評定等の評価内容による　・ 図示による（　　）
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・ 評定等の評価内容による　・
建込み時の杭の鉛直度
・ 評定等の評価内容による　・
杭継手工法　(4.3.2、6)(7.2.5)
・ 溶接継手
溶接材料
・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・ 図示による（　　）
・ 機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　・ 評定等を受けた工法（図　　による）
検査　・ 評定等により定められた項目（図　　による）
施工　・ 評定等をされた施工管理基準による（図　　による）
杭頭の処理　(4.3.8)
・ 行う
処理方法（切断に伴う補強方法含む）
・ 図示による（　　）　・
・ 行わない
杭頭の中詰め材料　(4.3.8)
・ 基礎のコンクリートと同調合のもの　・

4 鋼杭事業

種類の記号　(4.2.2)(4.4.3～6)
・ SKK400　・ SKK490　・
杭の種類、寸法、継手等

		種類	杭径	板厚 (mm)	杭長 (m)	継手数	長期設計支持力 (kN/本)
試験杭	上杭						
	中杭						
	下杭						
本杭	上杭						
	中杭						
	下杭						

試験杭の施工　※ 本杭の施工に先立ち行う　・
試験杭の位置、本数　※ 最初の一本　・ 図示による（　　）
施工方法　(4.4.2)
・ 特定埋込杭工法　(4.3.5)
・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
α＝250を採用できる工法　図示による（　　）
・ 上記以外の特定埋込杭工法　図示による（　　）
工法
・ 中堀り拡大根固め工法
・
杭の支持層への根入れ深さ
・ 評定等の評価内容による　・ 図示による（　　）
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・ 評定等の評価内容による　・ 図示による（　　）
建込み時の杭の鉛直度
・ 評定等の評価内容による　・ 図示による（　　）
杭の現場継手　(4.4.5)
・ 溶接継手
形状
・ JIS A 5525による　・
溶接材料　(4.4.3)
・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・図示による（　　）
・
・ 機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法
・ 評定を受けた工法　（図　　による）
検査
・ 評定等により定められた項目　（図　　による）
施工
・ 評定等をされた施工管理基準による（図　　による）
杭頭の処理　(4.4.6)
・ 行う
処理方法（切断に伴う補強方法含む）
・ 図示による（　　）　・
・ 行わない
杭頭の中詰め材料　(4.4.6)
・ 基礎のコンクリートと同調合のもの

5 場所打ちコンクリート杭事業

杭径、長さ、仕様等　(4.2.2)(4.5.2)(4.5.4～6)
・ 図示による（　　）　・
材料その他
帯筋の加工及び組立
・ 図示による（構造関係共通事項(配筋標準図)6.2帯筋(b)(3)④(ロ)）
・
鉄筋の最小かぶり厚さ　・ 図示による（　　）
鉄筋かごの補強
・
組み立てた鉄筋の節ごとの継手
※ 重ね継手
重ね継手の長さ　・ 図示による（　　）
・
主筋の基礎底盤への定着長さ
・ 図示による（　　）　・
セメントの種類　(4.5.4)(6.3.1)
※ 高炉セメントＢ種 G　・
コンクリートの種別　(4.5.4)(表4.5.1)
・ Ａ種　・ Ｂ種　・ 評定等の評価内容による
コンクリートの設計基準強度(N/mm2)　(4.5.4～6)
・ 21　・ 24　・ 27　・ 30　・
スランプ
・ 18cm　※ 21cm　・
構造体強度補正値(S)　(4.5.4)
※ 3N/mm2　・ 評定等の評価内容による　・
掘削工法　(4.5.1)(4.5.5、6)
・ アースドリル工法
安定液
・ 使用する　・ 使用しない
・ リバース工法
・ オールケーシング工法
孔内の水張り
・ 行う　・ 行わない
併用する工法
・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法　図示による（　　）
鋼管巻き材料　・ SKK400　・ SKK490　・
・ 払底杭工法　図示による（　　）
安定液
・ 使用する　・ 使用しない
・
試験杭　(4.2.2)(4.5.5、6)
試験杭の施工　・ 本杭の施工に先立ち行う　・
試験杭の位置、本数　※ 最初の一本　・ 図示による（　　）
孔壁測定　(4.5.5、6)
・ 行う
測定方法、測定箇所は図示による（　　）
・ 行わない
杭の支持層への根入れ深さ
・ 図示による（　　）　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・ 杭径の1/4かつ100mm以下　・ 評定等の評価内容による
建て込み時の杭の鉛直度
・ 1/100以内　・ 評定等の評価内容による

6 置換コンクリート事業（ラップルコンクリート事業）

形状、支持地盤、仕様
・ 図示による（　　）　・
長期設計支持力
・（　　）N/mm2　・
セメントの種類　(6.3.1)
高炉セメントＢ種 G　・
コンクリートの設計基準強度(N/mm2)
・ 21　・ 24　・ 27　・ 30　・
構造体強度補正値(S)
・ 3N/mm2　・ 評定等の評価内容による　・

7 液状化対策

工法
・
仕様、範囲、計測、試験等
・ 図示による（　　）

8 砂利地業

材料　(4.6.2)
・ 再生クラッシャラン G　・ 切込砂利又は切込砕石

厚さ及び使用範囲　(4.6.3)

厚さ	使用範囲
※ 60	基礎スラブ下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下
・	

9 捨てコンクリート地業

コンクリートの仕様　(4.6.4)(6.14.1～3)
・ 無筋コンクリートによる　・
セメントの種類　(6.3.1)
・ 高炉セメントＢ種 G　・

厚さ及び使用範囲　(4.6.4)

厚さ	使用範囲
※ 50	基礎スラブ下、基礎梁下、土に接するスラブ下
・	

10 床下防湿層

施工範囲　(4.6.2、5)
・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）
・
材料
※ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・
防湿層の位置
・ 図示による（　　）　・

11 地盤改良（深層混合処理工法）

材料
固化材の種類　・セメント固化材　・
工法
方式
※機械撹拌方式　・
改良体の設計基準強度（Fc）、改良体長さ、改良率、改良体幅
・図示による　・
固化材の配合量及び水固化材比を決定するための対象とする地層
・図示による　・
室内配合試験における一軸圧縮試験の供試体数
・図示による　・
特殊な地盤等での試験施工
・図示による　・
改良工事完了後の試験
一軸圧縮試験の検査対象、コア採取方法、供試体数、検査方法
・図示による　・
六価クロム溶出試験
・適用する　・適用しない

12 地盤改良（浅層混合処理工法）

材料
固化材の種類　・セメント固化材　・
工法
方式
※原位置混合方式　・
改良体の設計基準強度（Fc）、改良体長さ、改良率、改良体幅
・図示による　・
固化材の配合量を決定するための対象とする地層
・図示による　・
室内配合試験における一軸圧縮試験の供試体数
・図示による　・
改良工事完了後の試験
一軸圧縮試験の検査対象、コア採取方法、供試体数、検査方法
・図示による　・
六価クロム溶出試験
・適用する　・適用しない

5 鉄筋工事

1 鉄筋の種類

鉄筋の種類等 (5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	呼び名	備考
・ SD295		
・ SD345		

2 溶接金網

鉄線の形状等 (5.2.2)

種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径(mm)	使用部位
・溶接金網			
・鉄筋格子			

3 加工

鉄筋の折曲げ形状および寸法
・鉄筋の折曲げ角度が90°未満の折曲げ内法直径（D）
（　　）以上

4 鉄筋の継手

継手方法等 (5.3.4)(5.5.2、3)

部位	継手方法	呼び名
柱・梁の主筋	・ ガス圧接　・ 機械式継手 ・ 溶接継手　・ 重ね継手	
耐力壁の鉄筋	・ 重ね継手　・	
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	・ 重ね継手　・ ガス圧接	
その他の鉄筋（　　）	・ 重ね継手　・	

耐力壁の重ね継手の長さ
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）3.1(a)表3.1によることとし、3.1(a)(3)は適用しない）
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）3.1(a)(3)）
・ 図示による（　　）
継手位置図
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）5.1、6.1、7.1、7.3、8.1）
柱及び梁主筋の重ね継手の長さ
・ 図示による（　　）　・

5 鉄筋の定着長さ

鉄筋の定着長さ (5.3.4)
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）3.1(b)）
・ 図示による（　　）　・
機械式定着工法
・ 適用する
適用箇所
・ 図示による（　　）　・
種類
・ 摩擦圧接接合　・ 螺合グラウト固定
・ 嵌合グラウト固定
工法
・ 第三者機関の評定等を取得している工法とする
必要定着長さ
・ 評定等の評価内容による
補強筋形状
・ 評定等の評価内容による
かぶり厚さ
・ 評定等の評価内容による
品質確認
・ 評定等の評価内容による
検査
・ 評定等の評価内容による

5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う） (5.3.5)
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）表4.1）
・ 図示による（　　）　・
柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
・ なし
・ あり　適用箇所（　　）
主筋のかぶり厚さ
・ 鉄筋径の1.5倍以上　・
軽量コンクリートを適用する場合
・ あり　適用箇所（　　）
・ 最小かぶり厚に加える厚さ（　　）mm
耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）
・ なし
・ あり　適用箇所（　　）
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）表4.1）に加える厚さ（　　）mm
鉄筋相互のあき（特殊な鉄筋を除く） (5.3.5)(図5.3.6)
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）4.1）
・ 図示による（　　）　・

6 各部配筋

各部配筋 (5.3.7)
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）4.1）
・

7 圧接完了後の試験

抜取試験 (5.4.10)(5.4.11)
※ 超音波探傷試験　標準仕様書5.4.10（イ）（a）による
・ 引張り試験
試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする
なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする

8 機械式継手

使用箇所 (5.5.3)
・ 図示による（　　）　・
性能（H12建設省告示第1463号に適合するもの） (5.5.3)
・ A級　・
種類 (5.5.3)
・ ねじ式鉄筋継手
充填方式
・ 無機グラウト方式　・ 有機グラウト方式
・
・ 端部ねじ加工継手
・ モルタル充填式継手
・
工法 (5.5.3)
・ 第三者機関の評定等を取得している工法
・ 図示による（　　）
鉄筋相互のあき (5.3.5)
・ 評定等の評価内容による
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）4.1）
・
品質の確認方法 (5.5.3)
・ 評定等の評価内容による
・ 図示による（　　）
検査
・ 評定等の評価内容による　・
施工完了後の継手部の試験 (5.5.5)
・ 外観試験
試験対象　※ 全数
試験項目　※ 評定等の評価内容による　・ 全数
試験方法　※ 評定等の評価内容による　・ 全数
・ 超音波測定試験
試験対象
・ 抜き取り
ロット　・ 1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする
・
試験の箇所数　1ロットに対して（　　）箇所
・ 全数
試験項目　・ 挿入長さ
試験方法　・ JIS Z 3064（鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準）による
不良となった継手の修正方法等 (5.5.5)
・ 図示による（　　）　・

9 溶接継手

使用箇所 (5.6.3)
・ 図示による（　　）　・
性能（H12建設省告示第1463号に適合するもの） (5.6.3)
・ A級　・
溶接継手の工法（　　） (5.6.3)
鉄筋相互のあき (5.3.5)
・ 標準仕様書5.3.5(4)による
・ 評定等の評価内容による
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）4.1）
・
施工完了後の継手部の試験 (5.6.5)
・ 外観試験
試験対象　※ 全数
試験項目　※ 評定等の評価内容による　・ 全数
試験方法　※ 評定等の評価内容による　・ 全数
・ 超音波測定試験
試験対象
・ 抜き取り
ロット　・ 1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする
・
試験の箇所数　1ロットに対して（　　）箇所
・ 全数
試験項目　・ 内部欠陥の検出
試験方法　・ JIS Z 3063（鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準）による
品質の確認方法 (5.6.3)
・ 図示による（　　）　・
不良となった継手の修正方法 (5.6.5)
・ 図示による（　　）　・

10 帯筋

組立の形の種別
・ 図示による
（構造関係共通事項（配筋標準図）6.2　・H形　・（　　）形）
・ 図示による（　　）

11 最上階柱頭補強

補強方法
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）6.1）
・ 図示による（　　）

12 片持ちスラブの出隅部の補強配筋（出隅受け部分の補強筋を含む）

配筋方法
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）9.2）
・ 図示による（　　）
出隅部分及び出隅受け部の補強筋　・ 図示による　・
・ 図示による（　　）　・・ 図示による　・

13 壁開口部の補強

一般壁
・ 図示による
（構造関係共通事項（配筋標準図）8.2　（ ・ A形　・ B形 ））
・ 図示による（　　）
耐震壁
・図示による（　　）

14 梁貫通部の補強

補強形式
・ 図示による
（構造関係共通事項（配筋標準図）11.1　（ ・H形　・（　　）形）
・ 図示による（　　）
配筋種別
・ 図示による（構造関係共通事項（配筋標準図）11.1）
・ 図示による（　　）
梁貫通孔径（部材記号含む）及び配筋種別リスト
・ 図示による（　　）

15 基礎梁主筋の継手

・ 図示による
（構造関係共通事項（配筋標準図）5.1(b)による（ ・全て　・　）
・ 図示による
（構造関係共通事項（配筋標準図）5.1(c)による（ ・全て　・　）
・ 図示による
（構造関係共通事項（配筋標準図）5.1(d)による（ ・全て　・　）
・ 図示による（　　）

16 機械吊上げ用ﾌｯｸ

種別
・ 図示による（　　）

6 コンクリート工事

1 コンクリートの種類

コンクリートの類別 (6.2.1)（表6.2.1）
※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

・普通コンクリート (6.2.1～6.2.4)（表6.2.2）

設計基準強度（N/mm２）	スランプ（cm）	適用箇所
・	※ 15又は18　・	基礎、基礎梁、土間スラブ
・	※ 18　・	柱、梁、スラブ、壁
・		
・		

・軽量コンクリート (6.2.1)（6.10.2）

・建築基準法第37条第二号の規定に基づき認定を受けたコンクリート (6.2.1)
適用箇所（　　）

2 構造体コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)（表6.2.4）

種別	適用箇所
・ A種	・ 図示による　・
・ B種	・ 図示による　・
・ C種	・ 図示による　・

コンクリートの仕上がりの平たんさ

種別	適用箇所
・ a種	・
・ b種	※ 防水立上がり、防水押えｺﾝｸﾘｰﾄ立上がり　・
・ c種	※ 見え掛りのｽﾗﾌﾞ

3 セメント

種類 (6.3.1)(表6.3.1)
※ 普通ポルトランドセメント又は高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
（普通ポルトランドセメントの品質はJIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする
施工箇所（　　）
・ 高炉セメントB種G
施工箇所（ ※ 基礎、地中梁　・　）
・ フライアッシュセメントB種G
施工箇所（　　）
・

4 骨材

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
※ A　・ B

5 混和材料

混和剤の種類 (6.3.1)
※ 標準仕様書6.3.1(4)(a)による　・
混和材の種類
※ 標準仕様書6.3.1(4)(b)による　・
標準仕様書6.3.2（イ）（f）の①～③以外の混和材料 (6.3.2)
使用方法及び使用量
※監督職員の承諾による

6 コンクリートの調合

調合管理強度 (6.3.2)
構造体強度補正値（S）
※標準仕様書 表6.3.2による
・

9 打継ぎの位置

打継ぎの位置 (6.6.4)
ひび割れ誘発目地
打継ぎ目地
梁及びスラブ
※スパンの中央又は端から１/４の付近
・図示による　・
柱及び壁
※スラブ、壁梁又は基礎の上端
・図示による　・
目地寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
※ 標準仕様書9.7.3による　・ 図示による（　　）
・ 図示による（　　）　・
ひび割れ誘発目地の位置、形状
・ 図示による（　　）　・

11 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

・ 打放し仕上げ（仕上塗材、塗装等の仕上げを行う部分を含む）の打増し厚さ（外部に面する部分に限る） (6.8.1)
・ 20mm　・
・ 打放し仕上げ（仕上塗材、塗装等の仕上げを行う部分を含む）の打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
・ 10mm　・ 20mm　・
打増し範囲
・図示による

12 型枠

・ 外壁タイル張りで、MCR工法又は目荒らし（高圧水洗）工法を行う場合は外部側に20mmの打増しを行う (6.8.2)
せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
・ 合板（ ※ 12mm　・　）G
・
断熱材の兼用した型枠材の使用 (6.8.3)
・ 行う　適用箇所（　　）
・ 行わない
スリーブの材種・規格等 (6.8.2)
・ 標準仕様書6.8.2(9)(ｱ)、(ｲ)による　・
型枠の最小存置期間 (6.8.4)
・セメントの種類が普通エコセメントの場合（　　）

13 軽量コンクリート

適用箇所 (6.10.1)
・図示による　・
種類　・ 1種　・ 2種 (6.10.2)（表6.10.1）
気乾単位容積重量　・（　　）t/m³
スランプ　※ 21cm　・

14 寒中コンクリート

適用期間 (6.11.1)
・ 図示による　・
構造体強度補正値（S）
・標準仕様書6.11.2（3）（ｱ）による
・積算温度を基に定める

15 暑中コンクリート

スランプ　※21cm　・ (6.12.2)
構造体強度補正値（S）
※標準仕様書 表6.12.1による　・

16 マスコンクリート

セメントの種類 (6.13.1、2)
・ 高炉セメントB種G
・ 普通ポルトランドセメント
・ 中庸熱ポルトランドセメント
・ 低熱ポルトランドセメント
・ フライアッシュセメントB種G
・ シリカセメント
適用箇所 (6.13.2)
・ 図示による（　　）　・
混和材料 (6.13.2)
混和剤の種類
※ 標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による　・
混和材の種類
※ 標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による　・
スランプ (6.13.2)
※ 15cm　・
構造体強度補正値(S) (6.13.2)
※ 標準仕様書表6.13.1による　・

17 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.14.1)
※ 普通コンクリート　・
設計基準強度 (6.14.1)
※ 18(N/mm²)　・
スランプ (6.14.1)
※ 15cm又は18cm　・

18 流動化コンクリート

適用箇所 (6.15.1)
・ 図示による　・
空気量　※ 4.5%　・

19 高流度コンクリート

適用箇所（部位、部材） (6.16.1)
・ 図示による　・
材料及び調合
スランプフロー
・ 図示による　・
空気量　※ 4.5%　・
単位粗骨材かさ容積　※0.500m³/m³以上　・

20 コンクリートの強度試験

コンクリートの材齢28日の圧縮強度試験は大分県土木建築部が指定する品質管理試験を行う試験場とする (6.16.1)

年　度	設計年月	工事名	建築士法第20条第１項に基づく表示	図　面　名　称	縮　尺	Ｎｏ.
		R8.5		特記仕様書（その３）		

7 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)
- 建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄鋼工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める（　　）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
- 監督職員の承諾する工場(標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)

2 鉄骨製作工場における施工監理技術者

※ 適用する (7.1.4)
・配置する　　・配置しない

3 鋼材

(7.2.1)(表7.2.1)

種類の記号	適用箇所	規格	
	・ 図示による（　）	・ JISによる	・ 大臣認定による
	・ 図示による（　）	・ JISによる	・ 大臣認定による
	・ 図示による（　）	・ JISによる	・ 大臣認定による
	・ 図示による（　）	・ JISによる	・ 大臣認定による

形状および寸法 (7.2.1)
・ 図示による　　・
板厚方向に引張力を受ける鋼材の試験 (7.2.10)
・ 行う　(適用箇所：　　)　　・ 行わない

4 高力ボルト

高力ボルトの区分 (7.2.2)(7.3.2)(7.4.1～7.4.9)
- トルシア形高力ボルト　　・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト
- JIS形高力ボルト　　・ 建築基準法に基づき認定を受けた高力ボルト

セットの種類　・2種(F10T)
ボルトの寸法
ねじの呼び　　・ 図示による　　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・ 図示による（構造関係共通事項(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔）
・
摩擦面の処理方法
・ 標準仕様書7.4.2(1)による
・
すべり係数試験 (7.4.2)
・ 行わない
・ 行う
試験方法等
・ 図示による（　　）　　・
・ 溶融亜鉛めっき面の摩擦面の処理方法 (7.12.5)
※ 標準仕様書7.12.5 (1) (ア)、(イ)による
・
JIS形効力ボルトの締付け（本締め） (7.4.7)
ナット回転法の場合で、ボルト長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量
・ 図示による　　・

5 普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)(7.3.2)(7.3.8)
・ 標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)による
・
ボルトの形状及び寸法
ねじの呼び　　・ 図示による　　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・ 図示による（構造関係共通事項(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔）
・
母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径 (7.3.8)
※ねじの呼び径 + 1.0mm

7 アンカーボルト

適用 (7.2.4)(表7.2.3)
- 構造用アンカーボルト
  - ・ ABR400　　セットの種類（JIS B 1220）
  - ・ ABR490　　セットの種類（JIS B 1220）
  - ・ SNR400B　　アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
    - ・ 標準仕様書 表7.2.3による

  形状、寸法
  - ・ 図示による（　　）　　・
- 建方用アンカーボルト

  材質　　・SS400　　・
  ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
  ※ 標準仕様書 表7.2.3による　　・
  形状、寸法
  - ・ 図示による（　　）　　・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・ 図示による（　　）　　・

8 溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
※ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による
・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)以外の溶接材料
材料及び使用箇所　　・図示による（　　）　　・

9 ターンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックル胴　　※　割枠式　　・
建築用ターンバックルボルト　　※　羽子板ボルト　　・
ねじの呼び　　・ 図示による（　　）　　・

10 床構造用デッキプレート

材質、形状及び寸法 (6.8.2)(7.2.7)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・ デッキプレート単独の構法			
・ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			

床型枠用を使用する場合において受注者は、施工に先立ち施工の安全性を確認すること

開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む）
・ 図示による（　　）　　・
鉄骨部材への溶接方法
・ 図示による（　　）　　・
耐火認定
・ 有り
耐火時間
・ 図示による（　　）　　・
・ 無し

11 スタッド

材質、形状及び寸法 (7.7.8)
・ 頭付きスタッド JIS B 1198
呼び名等

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・ 16		
・ 19		
・ 22		

12 柱底均しモルタル

モルタルの種別 (7.2.9)
・ 無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料、調合等
※ 標準仕様書7.2.9(2)(ｱ)から(ｴ)による　　・
・ 標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル

13 工作図

監督職員による現寸検査 (7.3.2)
・ 行わない　　・ 行う
増築工事等を含め、既存建築物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上作成を行う

14 製作精度

鉄骨の製作精度は、JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」に加えて次による
通しダイアフラムの突き合せ継手の食い違い寸法
・ H12建設省告示第1464号第二号イ(2)による
・
アンダーカットの寸法
・ H12建設省告示第1464号第二号イ(3)による
・
食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
・「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・

15 鉄骨の仮組

(7.3.10)
・ 行う　　・行わない
仮組を行う範囲
・ 図示による（　　）　　・

16 溶接技能者の技量付加試験

試験の要領及び試験を要する溶接箇所 (7.6.3)
・ 図示による（　　）　　・

17 溶接接合

開先の形状 (7.6.4)
・ 図示による（構造関係共通事項(鉄骨標準図)1-2）
・ 図示による（　　）
・
スカラップの形状 (7.6.7)
・ 図示による（構造関係共通事項(鉄骨標準図)1-4）
・ 図示による（　　）
・
鋼製エンドタブの切断する部分 (7.6.7)
・ 全て
・ 見え掛り部となる部分
・ 切除する部分なし
・
切断する範囲
・ 鋼製エンドタブ、裏あて金等は、梁フランジの端から直線上に切断する。その際の残し寸法は5mm以下とする
なお、切断面が交差する場合は交差部をアール状に加工する
・
切断面の仕上げ
※ 標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)②による
・
溶接部の余盛り高さ (7.6.7)
・ JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」付表3[溶接]による
・
低応力高サイクル疲労を受ける部位 (7.6.7)
・ 図示による（　　）　　・

18 現場溶接の有無

・なし
・あり
適用箇所
・ 図示による（　　）　　・

19 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 (7.6.7)(7.6.10)
・ 図示による（構造関係共通事項(鉄骨標準図)1-4）
・ 図示による（　　）
・
適用箇所
・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
・ 図示による（　　）

20 溶接部の試験

完全溶け込み部の超音波探傷試験 (7.6.12)(表7.6.2)(表7.6.3)
・ 行わない
・ 行う
・ 工場溶接の場合
・ 全数検査
・ 抜取り検査

AOQL(%)	・ 4.0	・ 2.5	
節	・ 全て	・	・
検査水準	※ 第6水準	・	・

・ 工事現場溶接の場合
・ 全数検査
・ 係数連続生産型抜取検査
AOQL(%)　　・ 4.0　　・ 2.5
突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル(建築研究所監修)」による
・ 抜取り検査①
※ 抜取り検査②
JASS 6 付則6「鉄骨精度検査基準」の付表3[溶接]に関する試験方法等
・ JASS 6 10.4[受入検査]e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる
ただし、完全溶け込み溶接部の外観検査の抜取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する

21 錆止め塗装

塗料の種別 (7.8.4)(18.3.2)
- 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面の錆止め塗料（鉄骨に溶接されたものに限る）
  - ※　As種　　・　Bs種
  - ・
- 塗装を行う耐火被覆材の接着する面
  適用箇所
  - ・図示による（　　）　　・
- 上記以外の鉄鋼面
  - ・標準仕様書 表18.3.1
    - ・ As種　　・ Bs種　　・ Cs種　　・ Ds種

上記以外の鉄鋼面は18章［塗装工事］による

22 耐火被覆

種別 (7.9.2～8)

種別	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
・ 耐火材吹付け 構法	・ 乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ ・ 半乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ ・ 湿式ﾛｯｸｳｰﾙ ・ ・		
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸ｶﾙｼｳﾑ板 ・		
・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ﾛｯｸｳｰﾙ		
・ ラス張りﾓﾙﾀﾙ塗り	―		
・ 耐火塗料			

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

23 建方精度

・ (一社)日本建築学会「JASS6鉄骨工事」付則6 (7.10.2)
[鉄骨精度検査基準]付表5[工事現場]による

24 アンカーボルト等の設置

建方用アンカーボルトの保持及び埋込工法 (7.10.3)(表7.10.1)
種別　　・ A種　　・ B種
構造用アンカーフレームの形状及び寸法
種別　　・ 図示による（　　）　　・
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7.10.3)(表7.10.2)
・ 標準仕様書 表7.10.2
※ A種　モルタル厚さ（　　）
・ B種　モルタル厚さ（　　）

25 軽量形鋼構造

接合部(ボルト接合の場合) (7.11.2)
・ 普通ボルト接合　　・
母屋、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする

26 溶融亜鉛めっき（構造耐力上主要な部分）

種別 (7.12.4)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材料	適用部位
A種	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
B種	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
C種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

素地ごしらえは、JIS H 8641による
適用箇所
・ 図示による（　　）　　・

27 梁貫通孔の補強

補強方法
・ 補強プレート法
・ 補強トラス法
適用箇所
・ 図示による（　　）　　・

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント工事

1 補強コンクリートブロック造

ブロックの種類等　(8.2.2、3、5、8)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モジュール呼び寸法 長さ	モジュール呼び寸法 高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
・ 空洞ﾌﾞﾛｯｸC(16)	・ 120 ・ 150	・ 400	・ 200	・ 無　・ 有		
				・ 無　・ 有		

モルタルの調合(容積比)
　※　ブロックの区分がA (08) 、B (12) 、C (16)の場合で目地幅が10mm程度の場合
　※　標準仕様書表8.2.1による　・
各部の配筋
　・ 図示（　　）　・
目地仕上げ
　・ 押し目地仕上げ　・ 化粧目地仕上げ
まぐさを受ける開口部両側のブロックにおいて、モルタル又は
コンクリートで充填するブロックの範囲
　・ 図示による　・

2 コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類等　(8.3.2、3、4)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モジュール呼び寸法 長さ	モジュール呼び寸法 高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
・ 空洞ﾌﾞﾛｯｸC(16)	・ 120 ・ 150	・ 400 ・	・ 200	・ 無　・ 有		
・ 型枠状ﾌﾞﾛｯｸ20	・ 120	・ 400	・ 200	・ 無　・ 有		
	・ 150	・	・			
	・	・	・	・ 無　・ 有		
	・	・	・	・ 無　・ 有		

塀の厚さ(mm)
　塀の高さが2m以下　・ 120　・
　塀の高さが2m超え　・ 150　・
壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状
　・ 図示（　　）　・
化粧目地の有無　・ 無　・ 有
工法
　ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ積帳壁の積高さは、壁厚の25倍かつ3,500mm以内とし、その他
　の部分は同厚の鉄筋コンクリート造垂壁とする

3 ＡＬＣパネル

ＡＬＣパネルの区分等　(8.4.2～5)

区分 用途	区分 形状	区分 表面加工	単位荷重(N/m2) 正荷重	単位荷重(N/m2) 負荷重	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火性能	構法の種別
・ 外壁用	・ 一般 ・ ｺｰﾅｰ	・ 平 ・ 意匠			・ 100 ・	図示による	・ なし ・ 1時間	・ A種 ・ B種
・ 間仕切壁用	・ 一般 ・ ｺｰﾅｰ	・ 平 ・ 意匠	―	―	・ 100 ・	図示による	・ なし ・ 1時間	・ C種 ・ D種
・ 屋根用	―	―			・ 100	図示による	・	・ F種
・ 床用	―	―			・ ・ 100	図示による	・ なし ・ 1時間	

パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材　・ 図示による　・

外壁、屋根パネルの構法
　１章　適用区分による風圧力の（ ・ 1.0　・ 1.15　・ 1.3 ）倍
　の風圧力に対応した構法
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
　・ 図示　・
パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切りパネルの出隅及び入隅のパネル
接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の目地幅
　※ 10～20mm　・
外壁、間仕切りパネルの伸縮調整目地への耐火目地材の充填
　・ 適用する　・ 適用しない

4 押出成形セメント板（ＥＣＰ）

(8.5.2～5)

ﾊﾟﾈﾙの種類	形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	耐火性能
・ 外壁ﾊﾟﾈﾙ	・ F　・ F－R ・ D　・ D－R ・ T　・ T－R	・ 50 ・ 60 ・ 100	・ 450 ・ 600 ・	・ A種 ・ B種	・ 30分 ・ 1時間 ・ 2時間
・ 間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ	・ F　・ F－R ・ D　・ D－R ・ T　・ T－R	・ 50 ・ 60 ・ 100	・ 450 ・ 600 ・	・ B種 ・ C種	・ 30分 ・ 1時間 ・ 2時間

注）Ｆ：ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ、Ｄ：ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ、Ｔ：ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ
外壁ﾊﾟﾈﾙの方法
　１章　適用区分による風圧力の（ ・ 1.0　・ 1.15　・ 1.3 ）倍
　の風圧力に対応した構法
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
　・ 図示（　　）　・
パネル相互の目地幅　長辺（　　）mm　短辺（　　）mm
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm)　※ 15　・
耐火構造以外の目地及び隙間の処理
　・ パネルの製造所の仕様　・
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮
した強度を確認した資料を提出する

		孔あけ及び欠き込みの大きさ	切断後のﾊﾟﾈﾙの残り部分の幅
ﾊﾟﾈﾙに孔あけを設ける場合	短辺	・ ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下	150mm以下
	長辺	・ 500mm以下	300mm以下
ﾊﾟﾈﾙに欠き込みを設ける場合	短辺	・ ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下	300mm以下
	長辺	・ 500mm以下	300mm以下

9 防水工事

1 アスファルト防水

屋根保護防水　(9.2.2～5)(表9.2.3～9)
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	絶縁用ｼｰﾄ
・ A-1			※ ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上又はﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/m²程度 ・
・ A-2			
・ A-3			
・ B-1			
・ B-2			
・ A1-1		(種類) ・ JIS A 9521に基づく押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA(ｽｷﾝ層付) ・ (厚さ(mm)) ・ 25　・ 50	※ ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/m²程度 ・
・ A1-2			
・ A1-3			
・ B1-1			
・ B1-2			

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
　※ 標準仕様書(表9.2.3)及び(表9.2.4)による
　・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・　　材料による区分　・ R種　・ N種
　　厚さ（　　）mm以上
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
　※ 標準仕様書(表9.2.5)及び(表9.2.6)による
　・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・　　材料による区分　・ R種　・ N種
　　厚さ（　　）mm以上
押え金物の材質及び形状寸法
　※　アルミニウム製　L－30×15×2.0mm程度　・
立上がり部への断熱材及び絶縁用シート
　・ 設置しない　・ 設置する

屋根露出防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	仕上塗材 種類	仕上塗材 使用量
・ D-1			・ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・	・ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・
・ D-2				
・ D1-1		標準仕様書9.2.2(9) (種類) ・ (厚さ(mm)) ・ 25　・ ・		
・ D1-2				

高日射反射率防水の適用 G　・ 適用する　・ 適用しない
改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
　※ 標準仕様書(表9.2.8)による
　・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・　　材料による区分　・ R種　・ N種
　　厚さ（　　）mm以上
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
　・ 標準仕様書(表9.2.7)及び(表9.2.8)による
　・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・　　材料による区分　・ R種
　　厚さ（　　）mm以上
絶縁断熱工法のﾙｰﾌﾞﾚﾝ回り及び立上がり部周辺の断熱材の張りじまい位置
　・ 図示　・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
　種類　※ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定
　　・
　設置数量　※ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定
　　・　　箇所
押え金物の材質及び形状寸法
　※　アルミニウム製　L－30×15×2.0mm程度
　・

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・ E-1		・ E-2	

保護層　・ 設ける（ ・ 図示　・　　）　・ 設けない
E-1の工程3を行う部位
　※ 貯水槽、浴室等常時水に接する部位　・
防水層下地の立上がり
　・ コンクリート打放し仕上げ
　　※標準仕様書(表6.2.4)[打放し仕上げ種別]のB種　・
絶縁断熱工法のﾙｰﾌﾞﾚﾝ回り及び立上がり部周辺の断熱材の張りじまい位置
　・ 図示　・
平場の保護コンクリートの厚さ
　こて仕上げ　・ 水下80mm以上　・
　床タイル張り　・ 水下60mm以上　・
立上がり部の保護方法
　・ 乾式保護材
　　乾式保護材の材料　・
　・ れんが押え（ ・ 図示による　・　　）
　・ コンクリート押え　・モルタル押え（屋内等）

2 改質アスファルトシート防水

防水層の下地のモルタル塗り
　・ 適用する　（施工範囲　・ 図示　・　　）
　・ 適用しない
屋根排水溝　・ 図示　・
施工標識
　・ 監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取付ける

屋根露出防水　(9.3.2、3)(表9.3.1～3)
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	防湿用ｼｰﾄ	仕上塗材 種類	仕上塗材 使用量
・ AS-T1				・ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ AS-T2					
・ AS-T3					
・ AS-T4					
・ AS-J1					
・ ASI-T1		標準仕様書9.3.2(3)(ｳ) (種類) ・ (厚さ(mm)) ・ 25 ・ 50 ・	・ 設ける（改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様） ・ 設けない		
・ ASI-J1					

高日射反射率防水の適用 G　・ 適用する　・ 適用しない
改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
　※ 標準仕様書(表9.3.1)及び(表9.3.3)による
　・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・　　材料による区分　・ R種
　　厚さ（　　）mm以上
粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
　※ 標準仕様書(表9.3.2)及び(表9.3.3)による
　・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・　　材料による区分　・ R種
　　厚さ（　　）mm以上
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
　※ 標準仕様書(表9.3.2)及び(表9.3.3)による
　・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　　用途による区分　・　　材料による区分　・ R種
　　厚さ（　　）mm以上
立上がり部の押え金物の材質、形状及び寸法
　※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
　・
絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
　種類　※ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定
　　・
　設置数量　※ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定
　　・　　箇所
施工標識
　・ 監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取付ける

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種別　(9.4.2～4)(表9.4.1～3)

種別	施工箇所	可塑剤移行防止ｼｰﾄの材質	断熱材 G	仕上塗材 種類	仕上塗材 使用量
・ S-F1				※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ S-F2					
・ S-M1				※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ S-M2					
・ S1-F1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(b) (種類) ・ (厚さ(mm)) ・ 25 ・	※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ S1-F2					
・ S1-M1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(a) (種類) ・ (厚さ(mm))	※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ S1-M2		※ 発泡ｴﾁﾚﾝｼｰﾄ ・	・ 25 ・		

高日射反射率防水の適用 G　・ 適用する　・ 適用しない
S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様　・ 非歩行仕様　・ 軽歩行仕様
S1-M1及びS1-M2における防湿用フィルム　・ 設置する　・ 設置しない
S-M2またはS1-M2の立上がり部の工法
　・ 接着工法　立上がり面のシート厚さ　・ 1.5mm　・（　　）mm
　・ 機械式固定方法

屋内防水　(表9.4.3)　(9.4.2～9.4.4)
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り厚	保護層 立上がり部の保護ﾓﾙﾀﾙ塗り厚
・ SC-1			・ 7mm以下　・

平場のモルタル床塗りにおける床の目地割及び種類
　目地割　・ 目地割2m2程度、最大目地感覚3m程度
　　・ 目地割2m2程度、最大目地感覚3m程度
　目地の種類　・ 押し目地
合成高分子ルーフィングシートの種類及び厚さ
　・ 標準仕様書(表9.4.1)から(表9.4.3)による
　・ JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
　　種類　・　　厚さ　・（　　）mm以上
固定金具の材質、形状及び寸法
　※ 厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれら鋼板の片面
　　若しくは両面に樹脂を積層加工したもの
　・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
　種類　※ ルーフィングシートの製造所の指定　・
　設置数量　※ ルーフィングシートの製造所の指定　・　　箇所
接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
　・ 行う　（ ・ 図示　・　　）　・ 行わない
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、S1-F1の場合）
　・ 行う　（ ・ 図示　・　　）　・ 行わない
機械式固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
　1章 適用区分による風圧力の（ ・ 1.0　・ 1.15　・ 1.3 ）倍
　の風圧力に対応した工法
施工標識
　・ 監督職員と表示内容を協議し、指定の位置に標識を取付ける

4 塗膜防水

防水層の種別　(9.5.3)(表9.5.1、2)

種別	施工箇所	仕上塗材 種類	仕上塗材 使用量	保護層
・ X-1		・ 主材料の製造所の仕様 ・	※ 主材料の製造所の仕様 ・	
・ X-2		・ 主材料の製造所の仕様 ・	※ 主材料の製造所の仕様 ・	
・ Y-1	※ 地下外壁防水 ・			
・ Y-2	※ 屋内防水 ・			・ 適用する ・ 適用しない

高日射反射率防水の適用 G　・ 適用する　・ 適用しない
ウレタンゴム系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量
　種類　※ 主材料の製造所の仕様　・
　設置数量　※ 主材料の製造所の仕様　・　　箇所
ゴムアスファルト系塗膜防水Y-1、Y-2の工程数及び各工程の使用量
　・ 主材料の製造所の仕様　・
施工標識
　・ 監督職員と表示内容を協議し、指定の位置に標識を取付ける

5 ケイ酸質系塗布防水

防水層の種別　(9.6.1、3、4)(表9.6.1、2)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・ C-UI		・ C-UP	

防水層の下地
　壁　（ ※ コンクリート打放し仕上げ(表6.2.4 B種)
　　・
　天井部　（ ※ コンクリート打放し仕上げ(表6.2.4 B種)
　　・
下地処理
　コンクリートの打継ぎ箇所の処理
　　※ 打継ぎ部分に対し、幅30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い
　　清掃し、ケイ酸質系塗布防水剤の製造所の仕様により、ポリマーセメントモ
　　ルタルを充填する
　　・ 図示　・

6 シーリング

材料　(9.7.2、3、5)(表9.7.1)
　種類及び施工箇所
　※下表以外は、標準仕様書(9.7.1)による
　　ただし、外装壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、
　　カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

仕上げを行わない施工箇所
　・ 図示　・
シーリング材の目地寸法
　※ 標準仕様書(9.7.3)(1)(ｱ)～(ｳ)による
　・ 図示　・
接着性試験
　※ 簡易接着性試験　・ 引張接着性試験

10 石工事

1 施工

石材の割り付け　・ 図示　(10.1.3、5)
粗面仕上げの場合ののみ込みとなる部分の仕上げ
・ 図示　・
屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ
・ 行う　(適用箇所 ・ すべて　・　)
・ 行わない

2 石材等

天然石　(10.2.1、3)(表10.2.1、2)

施工箇所	岩石の種類	等級	形状及び寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上の種類
・ 床石		・ 2等品	・ 正方形に近い矩形 (石材1枚の面積が0.8m2以下) ・	・ 図示	・ 粗磨き ・ 本磨き
・			・ 正方形に近い矩形 (石材1枚の面積が0.8m2以下) ・	・ 図示	・ 粗磨き ・ 本磨き

・適用する（ ※　標準仕様書9.7による　・　図示による）

ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げの有無　・ あり　・ なし
テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上面による区分	寸法(mm)	表面仕上の種類
・ 床石	※ 大理石 ・ 花こう岩	※ 1.5～12 ・	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面	・ 図示	

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上の種類	備考
	※ 大理石 ・ 花こう岩	※ 1.5～12 ・	・ 300型 ・ 400型		

取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理剤、裏打ち処理剤金物の固定に使用する充填材料等
※ 専門工事業者の指定する製品　・

3 外壁湿式工法

受け金物　(10.2.2、3)(10.3.2、3)
材質　・ SUS304　・
形状及び寸法　・ L-75×75×6(mm)の加工　長さ=100mm
・ L-75×75×6(mm)の加工　長さ=150mm
・
アンカーの材質及び寸法　材質　※ SS400　・
寸法　・
あと施工アンカーの材質、寸法等　種類　・
材質　・
寸法　・
ドレインパイプの材質　・ 樹脂ネット製パイプクロスメッシュ巻き25～35φ
石裏面処理　・ 適用する　・ 適用しない
裏打ち処理　・ 適用する　・ 適用しない
下地ごしらえ　※ あと施工アンカー横筋流し工法
・ 流し筋工法　・ あと施工アンカー工法
目地
一般目地
・ シーリング材　目地幅　・ 標準仕様書(表9.7.1)による
・ 目地ﾓﾙﾀﾙ　目地幅　・ 6mm以上　・
・ 既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ　種　類　・
目地幅　・ 6mm以上　・
伸縮調整目地
位置　※ 標準仕様書(11.1.1)による　・ 図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・ 標準仕様書(表9.7.1)による　・
目地寸法　※ 幅・深さとも10mm以上　・ 図示

4 内壁空積工法

受け金物　(10.2.2)(10.4.2、3)
材質　・ SUS304　・
形状及び寸法　・ L-75×75×6(mm)の加工　長さ=100mm
・ L-75×75×6(mm)の加工　長さ=150mm
・
アンカーの材質及び寸法　材質　※ SS400　・
寸法　・
あと施工アンカーの材質、寸法等　種類　・
材質　・
寸法　・
石裏面処理　・ 適用する　・ 適用しない
裏打ち処理　・ 適用する　・ 適用しない
下地ごしらえ　※ あと施工アンカー横筋流し工法　・ あと施工アンカー工法
目地
一般目地
・ シーリング材　目地幅　・ 標準仕様書(表9.7.1)による
・ 目地ﾓﾙﾀﾙ　目地幅　・ 6mm以上　・
・ 既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ　種　類　・
目地幅　・ 6mm以上　・
伸縮調整目地
位置　※ 6m程度ごと　・ 図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・ 標準仕様書(表9.7.1)による　・
目地寸法　※ 幅・深さとも10mm以上　・ 図示

5 外壁乾式工法

乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等　(10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)
・ 図示　※ 標準仕様書(表10.2.4)による
(方式　・ スライド方式　・ ロッキング方式　)
アンカーの材質及び寸法　・ステンレス(SUS304)M10　・
あと施工アンカーの材質、寸法等　種類　・
材質　・
寸法　・
だぼ用の穴の位置　※ 標準仕様書(10.5.2)(2)(ｱ)による　・ 図示
石裏面処理　・ 適用する　・ 適用しない
裏打ち処理　・ 適用する　・ 適用しない
建築基準法に基づく耐風圧に対応した工法
1章 適用区分による風圧力の（ ・ 1.0　・ 1.15　・ 1.3 ）倍の風圧力に対応した構法
目地
目地幅及び深さ　・ 8mm以上　・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材　※ 標準仕様書(表9.7.1)による　・ 図示

6 床及び階段の石張り

透水性吸収防水剤　床石張り　・ 適用する　・ 適用しない　(10.6.2、3)
石裏面処理　床石張り　・ 適用する　・ 適用しない
階段張り　・ 適用する　・ 適用しない
裏打ち処理剤　床石張り　・ 適用する　・ 適用しない
目地
目地幅(屋外)　・
目地幅(屋内)　・
一般目地
・ シーリング材　目地幅及び深さ　・ 6mm以上　・
種類　・ 標準仕様書(表9.7.1)による
・
・ 目地モルタル　目地幅(屋外)　・ 4mm以上　・
目地幅(屋内)　・ 3～6mm以上　・
・ 既調合の目地モルタル　目地幅(屋外)　・ 4mm以上　・
目地幅(屋内)　・ 3～6mm以上　・
伸縮調整目地
位置　※ 床面積30m²ごと、細長い通路の場合6mごと及び他の部材と取り合う箇所
・ 図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・ 標準仕様書(表9.7.1)による　・
目地寸法　※ 幅・深さとも10mm以上　・ 図示

7 笠木、甲板等の石造り

取付け工法　・ 外壁湿式工法　・ 乾式工法
特殊部位用金物　・ 図示による　・
上記以外の金物の材質、形状および寸法　・ 図示による　・
石材の厚さ　・　mm
石裏面処理　・ 適用する　・ 適用しない

湿式工法の場合
目地
一般目地
目地幅　・　mm (6～10mm)
シーリング材
・適用する (※ 標準仕様書9.7による　・ 図示による)
・適用しない
伸縮調整目地
位置 ※ 標準仕様書表11.1.1による
・図示による
シーリング材の目地寸法
※ 幅・深さとも10mm以上　・ 図示による

乾式工法の場合
取付け代
※標準仕様書10.5.3 (2) による　・
石材の取付け　・図示による　・
石材の裏面の補強用モルタル　・ 適用する　・ 適用しない
目地
目地幅　・　mm (8mm以上)
シーリング材
・ 適用する (※ 標準仕様書9.7による　・ 図示による)
・ 適用しない

8 隔て板

石材の厚さ　※ 40mm　・

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置　※ 標準仕様書(表11.1.1)による　・ 図示　(11.1.3)(表11.1.1)
目地寸法　※ 標準仕様書(表9.7.3)による　・ 図示

2 セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状、寸法等　(11.2.2、3、7)

施工箇所	種類	形状寸法(mm)	吸水率による区分 I類	II類	III類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材料の適用G	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・ 行う　・ 行わない
見本焼き　・ 行う　・ 行わない
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・ 目荒らし工法 (高圧水洗処理)　・ MCR工法　・
壁タイル張りの工法
内外装タイル　・ 密着張り　・ 改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル　・ マスク張り　・ モザイクタイル張り

既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等をあらかじめ工場において所定の割合に配合した材料とする
(品質・性能・試験方法)　建築材料等品質性能表による

3 有機系接着剤によるタイル張り

タイルの形状、寸法等　(11.3.2～4、7)

施工箇所	種類	形状寸法(mm)	吸水率による区分 I類	II類	III類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材料の適用G	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・ 行う　・ 行わない
見本焼き　・ 行う　・ 行わない
目地のシーリング材
打継ぎ目地　※ ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・
ひび割れ誘発目地　※ ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・
伸縮調整目地　※ 変性ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・
その他の目地　※ 変性ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材　・
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の処理
・ 目荒らし工法(高圧水洗処理)　・MCR工法　・

12 木工事

1 表面仕上げ

見え掛り面の仕上げの程度　(12.1.4)(表12.1.1、2)
※ プレーナー加工仕上げ
施工箇所 (・ 図示による　・　)
・ 超自動機械かんな掛け仕上げ
施工箇所 (・ 図示による　・　)
・サンダー掛け仕上げ
施工箇所 (・ 図示による　・　)
・

2 製材 G

(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

・ JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	材面の品質	間伐材の適用
			※ 2級 ・		※ A種 ・ B種 ・			・
			※ 2級 ・		※ A種 ・ B種 ・			・

・ JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	材面の品質	間伐材の適用
見え掛り面			※ 上小節 ・		※ A種 ・ B種 ・			・
見え掛り面以外			※ 小節以上 ・		※ A種 ・ B種 ・			・

・ JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	材面の品質	間伐材の適用
			※ 1等 ・		※10%以下 ・ A種 ・ B種 ・			・
			※ 1等 ・		※10%以下			・

・ JAS 1083(製材)以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	造作材の材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材の適用
			・ (造作材の場合) ※ A種　・ B種	・ 適用する ・ 適用しない	※ A種 ・ B種 ・	・
			・ (造作材の場合) ※ A種　・ B種	・ 適用する ・ 適用しない	※ A種 ・ B種 ・	・

3 造作用集成材G

・ JAS 1152 による造作用集成材　(12.2.1)

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材の適用
				※ 1等 ・ 2等	・
				※ 1等 ・ 2等	・

・ JAS 1152 による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材の適用
						※ 1等 ・ 2等	・
						※ 1等 ・ 2等	・

・ JAS 1152 以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材の適用
						・
						・

・ JAS 1152 以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材の適用
				※ 15%以下　・	・
					・

4 造作用単板積層材

・ JAS 0701に基づく造作用単板積層材　(12.2.1)

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材の適用
		・ あり(加工 ・ 天然木加工　・ 塗装加工) ・ なし(等級　・1等　・2等　・3等)	・ 適用する ・ 適用しない	・

・ JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	間伐材の適用
		・ あり(加工 ・ 天然木加工 ・ 塗装加工) ・ なし(等級　)	・ 適用する ・ 適用しない	※ 14%以下 ・	・

・ JAS 3079に基づく直交集成板(CLT)G

施工箇所	品名	曲げ性能(強度等級)	種別	接着性能(使用環境)	樹種	寸法(mm)	間伐材の適用
							・

5 合板等

・ JAS 0233 による普通合板　G　(12.2.1)

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材の適用
	※ 5.5 ・	・ ラワン ・ しな ・	※ 1類 ・ 2類	広葉樹 ※ 2等以上 ・ 1等	・ 適用する ・ 適用しない	・
		・ ラワン ・ しな ・	・ 1類 ・ 2類	針葉樹 ※ C-D以上 ・	・ 適用する ・ 適用しない	・

・ JAS 0233 による構造用合板　G

施工箇所	厚さ(mm)	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	強度等級	間伐材の適用
	※ 12 ・	※ 2級以上 ・ 1級		・ 1類 ・ 特類	※ C-D以上 ・	・ 適用する ・ 適用しない	・ 適用する ・ 適用しない	・

・ JAS 0233　による化粧ばり構造用合板　G

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材の適用
			・ 1類 ・ 特類	・ 適用する ・ 適用しない	・

・ JAS 0233　による天然木化粧合板　G

施工箇所	厚さ(mm)	化粧板に使用する単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
			・ 1類 ・ 2類	・ 適用する ・ 適用しない

・ JAS　0233　による特殊加工化粧合板　G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	表面性能	化粧加工の方法	防虫処理
		・ 1類 ・ 2類			・ 適用する ・ 適用しない

12 木工事（続き）

5 合板等（続き）

・ JIS A 5908 パーティクルボード G

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分
	※ 15 ・		※ 13ｷﾀｲﾌﾟ ・	※ P又はM ・	

・ JAS 0306に基づく構造用パネル G

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態
		・ 1級　・ 2級　・ 3級　・ 4級

・ JIS A 5905 ＭＤＦ G

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

6 接合具等

造作材の化粧面の釘打ち (12.2.2)
※ 隠し釘打ち　・ 釘頭埋め木　・ つぶし頭釘打ち　・ 釘頭現し
諸金物
※ かすがい、座金、箱金物、短冊金物
標準仕様書(表12.2.3～表12.2.5)に示す程度の市販品、表14.2.2のF種程度
・
形状（　　）寸法（　　）材質（　　）

7 防腐・防蟻

・ 防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材 (12.3.1、2)
適用部位（　　）
・ 薬液の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	・ K2　・ K3　・ K4
	・ K2　・ K3　・ K4

・ 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※ 標準仕様書(12.3.1)(f)(b) ・	・ JIS K 1571に適合又は同等品 ・
	・	・

・ 薬剤の接着剤への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（　　）
・ 合板等の加圧注入処理の適用
適用部位（　　）

8 不燃処理木材等

・ 不燃材料　(使用箇所：　　)
・ 準不燃材料　(使用箇所：　　)
・ 難燃材料　(使用箇所：　　)

9 内部間仕切軸組及び床組

間仕切軸組に用いる木材
・製材　※ 杉又は松　・
・　(材種：　　)
床組に用いる木材
・製材　※ 杉又は松
・　(材種：　　)

10 窓、出入口その他

窓、出入口その他に用いる木材
・製材　吊元枠、水掛りの下枠及び敷居
※ ひのき　・
その他
※ 松又は杉　・
・　(材種：　　)

11 床板張り

縁甲板及び上がりがまちに用いる木材
・製材　※ ひのき　・
・　(材種：　　)

12 壁及び天井下地

壁及び天井下地に用いる木材
・製材　※ 杉又は松　・
・　(材種：　　)

13 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※ JIS G 3322の屋根用ｺｲﾙ(CGLCCR-20-AZ150) ・			・ 心木なし瓦棒葺 ・ 立平葺 ・ 縫掛葺 ・ 横葺 ・	

下葺材料
・ アスファルトルーフィング940
・ 改質アスファルトルーフィング下葺材
（・ 一般タイプ　・ 複層材タイプ　・ 粘着層付タイプ）
工法
1章 適用区分による風圧力の（・ 1.0　・ 1.15　・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
雪止め　・ 設置する（図示）
横葺の場合のけらば納め
・ つかみ込み納め　・ けらば包み納め

2 折板葺

(13.2.2)(13.3.2、3)(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分 山高	山ﾋﾟｯﾁ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
	・ 重ね形 ・ はぜ締め形 ・ かん合形 ・			種	・ 鋼板製 ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		・ あり ・ なし	・ 30分 ・ なし

材料　・ JIS G 3322の屋根コイル(CGLCCR-20-AZ150)
・
タイトフレームにJIS G 3322以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋外で使用する場合の表面処理
標準仕様書(表14.2.2)による　・ E種　・ F種
断熱材張り　・ 行う　断熱材の種別
厚さ(mm)
防火性能　時間
・ 行わない
折板のけらば納め
※ けらば包みによる方法　・
工法
1章 適用区分による風圧力の（・ 1.0　・ 1.15　・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

3 粘土瓦葺

(13.4.2)(13.4.3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	産地	役物瓦の種類	雪留め瓦
						・ 適用する ・ 適用しない
						・ 適用する ・ 適用しない

JIS A 5208に基づく凍害試験等　・ 行う　・ 行わない
瓦桟木　材質　※ 杉　・
寸法　※ 幅21mm×高さ15mm以上　・
棟補強用心材　材質　※ 杉　・
寸法　※ 幅40mm×高さ30mm以上　・
瓦緊結用釘及びねじ
種類（　　）径（　　）長さ（　　）
棟補強等に使用する金物等
材質　・ ステンレス製　・ 溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状、寸法及び留め付け方法　・ 図示　・
工法
1章 適用区分による風圧力の（・ 1.0　・ 1.15　・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等
・ 図示　・
瓦桟木の留め付け工法　・ 図示　・
棟の工法　・ 7寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟
・ のし積み棟　・
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
・ モルタル　・ 瓦葺き用しっくい

4 とい

といの材種 (13.5.2、3)(表13.5.4)

種別	材種	径	施工箇所	備考
たてどい	・ 硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管			
	・ 配管用鋼管			
	・ ステンレス鋼管			SUS304
	・ 硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(ｶﾗｰ)			
軒どい	・			

鋼管製といの防露巻き
・ 適用する（工法　・ 標準仕様書(表13.5.4)による　・
・ 適用しない

とい受け金物 (13.5.2)(表13.5.3)
材種　※ 標準仕様書(表13.5.2)による(溶融亜鉛めっきを行ったもの)
・ ステンレス製
形状　・ 市販品(とい径100以下)
・ 25mm×4.5mm以上(とい径100を超えるもの)
取付け間隔　※ 標準仕様書(表13.5.2)による　・
足金物
材種　※ 標準仕様書(表13.5.2)による(溶融亜鉛めっきを行ったもの)
形状　・ 市販品　・
取付け間隔　※ 標準仕様書(表13.5.2)による　・
多雪地域　・ 適用しない　・ 適用する

ルーフドレンの材種その他

種別		呼び	施工箇所	材種
・ ろく屋根用たて形Ｉ型	・ ねじ込み式 ・	・ 80　・ 100　・ 125 ・ 150　・		
・ ろく屋根用横形I型	・ ねじ込み式 ・	・ 80　・ 100　・ 125 ・ 150　・		
・ ﾊﾞﾙｺﾆｰ用	・ ねじ込み式 ・ 差し込み式	・ 50　・ 80　・ 100 ・ 50　・ 75　・ 100		
・ ﾊﾞﾙｺﾆｰ中継用	・ ねじ込み式 ・ 差し込み式	・ 50　・ 80　・ 100 ・ 50　・ 75　・ 100		

・金属工事

1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2)(表14.2.1)

種別	色合い等	施工所（成形板、笠木、建具以外）	備考
	・ 標準色（　　） ・ 特注色（　　）		

陽極酸化皮膜の着色方法　※ 二次電解着色　・ 三次電解着色

2 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	・ A種	
	・ B種	
	・ C種	
電気亜鉛めっき	・ D種	
	・ E種	
	・ F種	

3 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 (14.4.2～14.2.4)(表14.4.1)
屋外（※ 25形　・ 19形）　屋内（※ 19形　・ 25形）
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔　・ 900程度　・ 図示　・
周辺部の端からの間隔　・ 図示　・
野縁の間隔　・ 300程度　・ 図示　・
・ 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法　・ 図示　・
・ 天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
補強方法　・ 標準仕様書(14.4.4)(8)による　・ 図示
・ 天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法　・ 図示　・
・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所　・ 図示　・
補強方法　・ 図示　・
・ 天井下地材における耐風圧性を考慮した補強
補強箇所　・ 図示　・
補強方法　・ 図示　・
屋外の軒天井、ピロティ天井等の工法
1章 適用区分による風圧力の（・ 1.0　・ 1.15　・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

4 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類 (14.5.3)(14.5.4)(表14.5.1)
※ 標準仕様書(表14.5.1)によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・ 図示　・
スタッドの高さが5.0mを超える場合
・ 図示　・
出入り口及びこれに準ずる開口部の補強
※ 標準仕様書(表14.5.4)(5)による　・

5 金属成形板張り

(14.6.2、3)(表14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理 種別	色合い等
・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・ 押出し ・ ﾛｰﾙ ・ ﾌﾟﾚｽ ・	・ ﾌﾗｯﾄ ・ 目地あり ・ 目地なし ・ 凹凸 ・	・ 100 ・	・ 1.0 ・		
・						
・						

取付用下地　※ 標準仕様書14.4による　・図示による
伸縮調整接手　・ 設ける(施工箇所　・ 図示による　・　)
・ 設けない

6 アルミニウム笠木

(14.7.2)(14.7.3)(表14.2.1)(表14.7.1)

施工箇所	種類	製品幅	呼称肉厚	表面処理 種別	色合い等
	・ 押出し250形	・ 240 ・ 250	・ 1.6以上	・ 種	・ 標準色 （　　）
	・ 押出し300形	・ 300 ・	・ 1.8以上		・ 特注色 （　　）
	・ 押出し350形	・ 350 ・	・ 2.0以上		
	・	・	・ 2.0以上		
	・ 板材折曲げ形	・	・ 2.0以上		

表面処理は表14.2.1による

棟上避雷導体システム　・ なし　・ あり(実厚2.0以上)
笠木の固定金具の工法等
取付け用下地　・標準仕様書(14.4)による　・ 図示
工法
1章 適用区分による風圧力の（・ 1.0　・ 1.15　・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

15 左官工事

1 モルタル塗り

モルタル　・ 現場調合材料 (15.3.2)(15.3.5)
・ 既調合材料（材料：　　）
既製目地材　・ 設ける　施工箇所（　　）
形状　（・ 図示　・　　）
・ 設けない
床の目地　・ 設ける　目地割り　※ 2m²程度（最大目地間隔3m程度）
・
目地の種類　※ 押し目地
・
・ 設けない
外装壁タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整剤塗りの接着力試験
・ 適用する　・ 適用しない

2 ラス系下地

構法 (15.2.4)
・ 二層下地通気構法
・ 単層下地通気工法
換気口部の措置　・ 公共木造建築工事標準仕様書(11.4.3)(2)(ｳ)
・
・ 直張りラスモルタル下地
・ 直張りラスシートモルタル下地
建築基準法に基づく耐力壁、耐火構造、準防火構造等の指定
・
ラスの材料
材料記号及び種類　（　　）
単位面積あたりの質量　（　　）
ラスシートの材料
ラス目による区分　（・ Ｍ　・　　）
山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分
（・ LS4(建築基準法に基づく耐力壁)　・　　）
ステープルの形状及び寸法　（　　）
直張りラスシートモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスシートの施工
（　　）

3 せっこうボード その他のボード下地

せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ (15.2.5)
種類（・ GB-R　・ GB-L　・　）　厚さ（　mm）
木質系セメント板の種類及び厚さ
種類（　　）　厚さ（　mm）

4 こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定　・ 指定あり　・ 指定なし (15.2.6)

5 木ずり下地

木ずり用小幅板の種類　（※ 杉(心去り材)　・　　）(15.2.7)

6 セルフレベリング材塗り

・ せっこう系　・ セメント系 (15.5.2)(表15.5.1)

7 仕上塗材仕上げ

仕上塗材の種類 (15.6.2)

・ 薄付け仕上げ塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性
・	・	・	・ 適用する
・	・	・	・ 適用する

防火材料 ・建築基準法に基づく指定又は認定品（ ）

・ 厚付け仕上げ塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗材
・	・	・	・ 適用する	・ 適用する
・	・	・	・ 適用する	・ 適用する

防火材料 ・建築基準法に基づく指定又は認定品（ ）

・ 複層仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性
・	・	・	(溶媒) ・ 水系 ・ (樹脂) ・ ｱｸﾘﾙ系 ・ (外観) ・ つやあり ・ ﾒﾀﾘｯｸ ・	・ 耐候型3種 ・ 耐候型2種 ・ 耐候型1種 ・
・	・	・	・	・

防火材料 ・建築基準法に基づく指定又は認定品（ ）

・ 軽量骨材仕上塗材

種類(呼び名)	防火材料
・	・
・	・

8 ＡＬＣパネルの場合の下地処理

内部目地部の形状 ・ Ｖ形目地付き ・ (15.6.4)

9 マスチック塗材塗り

種別 ・ A種 ・ B種（仕上材塗り EP-G ・ B種 ・ A種） (15.7.2)

10 せっこうプラスター塗り

下塗り ・ 既調合プラスター（下塗り用） ・ 現場調合プラスター（下塗り用）
上塗り ・ 既調合プラスター（上塗り用） ・ しっくい塗り (15.8.3)

11 ロックウール吹付け

仕上げ材吹付け厚さ ・ 図示 ・ 25mm ・ (15.12.2,3)
色彩 ・ 着色 ・ 原色

12 しっくい塗り

しっくい (15.10.2～4)
・ 既調合材料 色しっくい ・ 適用する ・ 適用しない
・ 現場調合材料
下地
・ せっこうボード ・ せっこうラスボード ・モルタル塗り
・ 木ずり ・ こまい土壁 ・
既調合しっくいの調合
・ せっこうボード下地 ※ 標準仕様書15.10.3 (1) による ・
・ モルタル塗り下地 ※ 標準仕様書15.10.3 (1) による ・
・ せっこうラスボード下地 ※ 製造所の仕様による ・
現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
・ 木ずりの下地 ※ 標準仕様書15.10.3 (2) による ・
・ せっこうプラスター下地、こまい下地 ※ 標準仕様書15.10.3 (2) による
・
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
・ なで切り仕上げ ・ パターン仕上げ

13 こまい壁塗り

のり (15.11.2～5、7、8)
・ 土壁用ののり ・ ふのり ※ つのまた
・ ぎんなんそう ・ 粉末海藻
・
・ 砂壁用ののり ※ ふのり ・ つのまた
・ こんにゃくのり ・ にかわ
・ 合成高分子系混和剤
色土
・ 土物仕上げに用いる土色の種類 （ ）
・ 大津仕上げに用いる土壁の種類 （ ）
色砂の種類
・ 天然砂と岩石の砕砂 ・ 人工的に着色、製造したもの
下塗りの調合
※ 標準仕様書(表15.11.2) ・
塗厚
※ 標準仕様書(表15.11.8)による
・ 建築基準法に基づく耐力壁のある場合（ ）
こまい壁の工程
※ A種 ・ B種
・ こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類
・ 土物仕上げ工法 ・ 水ごね土物I工法 ・ 水ごね土物工法
・ のりさし土物工法 ・ ねりごね土物工法
・ 砂壁仕上げ工法
・ 切返し仕上げ工法
・ こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上げの工法の種類
・ 普通大津仕上げ工法 ・ 大津みがき仕上げ工法
ちりじゃくり
・ 図示 ・

16 建具工事

1 防火戸

・ 建具表による ・ (16.1.3)

2 見本の製作等

建具見本の製作 ・ 行う（建具符号 ） ・ 行わない (16.1.4)
建具見本製作の目的等 ・
特殊な建具の仮組 ・行う（建具符号 ） ・ 行わない

3 防犯建物部品

・ 適用する （ ・ 建具表による ・ ） (16.1.6)
・ 適用しない

4 アルミニウム製建具

性能等級 (16.2.2、4、5)(表14.2.1)(16.2.1、2)
・ 外部に面する建具の種別（コンクリート系下地及び鉄骨下地）
・ A種（建具符号 ・建具表による ・ ）
・ B種（建具符号 ・建具表による ・ ）
・ C種（建具符号 ・建具表による ・ ）
・ 外部に面する建具の種別（木下地）
・ D種（建具符号 ・建具表による ・ ）
・ E種（建具符号 ・建具表による ・ ）
・ 上記によらない場合
耐風圧性の等級 （ ）
気密性の等級 （ ）
水密性の等級 （ ）
（建具符号 ・建具表による ・ ）
枠の見込み寸法（ ・ 建具表による ・ ）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級 ・
（建具符号 ・建具表による ・ ）
断熱ドア・断熱サッシG
断熱性の等級 ・
（建具符号 ・建具表による ・ ）
材料
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 ・
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL ・
形状及び仕上げ
表面処理（外部に面する建具）
種別（標準仕様書(表14.2.1)による ・ BB-1種 ・ BB-2種
着色 ・ 標準色 ・ 特注色
表面処理（屋内の建具）
種別（標準仕様書(表14.2.1)による ・ BC-1種 ・ BC-2種
着色 ・ 標準色 ・ 特注色
結露水の処理方法
・ 水貯め式 ・ 排水水
工法
水切り板、ぜん板 ・ 図示 ・
木下地の場合の内付け建具 ・ 適用しない ・ 適用する

5 網戸等

(16.2.3)

種類	材質	線径	網目
・ 防虫網	※ 合成樹脂製 ・ ｶﾞﾗｽ繊維入り合成樹脂製 ・ ｽﾃﾝﾚｽ(SUS316)製	※ 0.25mm以上 ・	※ 16～18ﾒｯｼｭ
・ 防鳥網	・ ｽﾃﾝﾚｽ(SUS304)製		・ 網目寸法15mm

6 樹脂製建具

性能等級 (16.2.2、5)(16.3.2～5)(表16.3.1～4)
・ 外部に面する建具の種別（コンクリート系下地及び鉄骨下地）
・ A種（建具符号 ・ 建具表による ・ ）
・ B種（建具符号 ・ 建具表による ・ ）
・ C種（建具符号 ・ 建具表による ・ ）
・ 外部に面する建具の種別（木下地）
・ D種（建具符号 ・ 建具表による ・ ）
・ E種（建具符号 ・ 建具表による ・ ）
・ 上記によらない場合
耐風圧性の等級 （ ）
気密性の等級 （ ）
水密性の等級 （ ）
（建具符号 ・建具表による ・ ）
・防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（ ・ T-1 ・ T-2 ）
・断熱ドア・断熱サッシG
断熱性の等級 （・ H-4 ・ H-5 ・ H-6 ・ H-7 ・ H-8）
（建具符号 ・建具表による ・ ）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級 ・
枠の見込み寸法 ・ 建具表による ・
材料
ガラス ※ 複層ガラス(組合せは建具表による) ・
ステンレス製のくつずりの仕上げ ・ HL ・
形状及び仕上げ
表面色 ・ 標準色 ・ 特注色
工法
水切り板、ぜん板 ・ 図示 ・
木下地の場合の内付け建具 ・ 適用しない ・ 適用する

7 鋼製建具

性能等級 (16.2.2)(16.4.2～4)(表16.4.2)
簡易気密型ドアセット
・ 適用する （建具符号 ・ 建具表による ・ ）
・ 適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級（ ・ ）
（建具符号 ・ 建具表による ・ ）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級 ・
（建具符号 ・建具表による ・ ）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級 ・
（建具符号 ・建具表による ・ ）
材料
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS340J1L又はSUS443J1 ・
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL ・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ ・ 標準仕様書(表16.4.2)による
・
使用箇所 （ ）
標準型鋼製建具の形式及び寸法
・ 建具表による ・

8 鋼製軽量建具

性能等級 (16.2.2)(16.5.2～4)
簡易気密型ドアセット
・ 適用する （建具符号 ・ 建具表による ・ ）
・ 適用しない
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級 ・
（建具符号 ・ 建具表による ・ ）
・防音性能を求める戸（建具表による）
防音充填材
・グラスウール ・ロックウール

断熱ドア・断熱サッシ G
断熱性の等級 ・
（建具符号 ・建具表による ・ ）
材料
鋼板 ・ 亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板
・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 ・
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL ・ No.2B程度 ・
召し合せ、縦小口包み板の材質 ・ ステンレス鋼板 ※ 鋼板
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ ※ 標準仕様書(表16.5.1)による
・
使用箇所 （ ）
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法
・ 建具表による ・

9 ステンレス製建具

性能等級 (16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)
簡易気密型ドアセット
・ 適用する （建具符号 ・ 建具表による ・ ）
・ 適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級（ ・ ）
（建具符号 ・ 建具表による ・ ）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級 ・
（建具符号 ・ 建具表による ・ ）
断熱ドア・断熱サッシG
断熱性の等級 ・
（建具符号 ・建具表による ・ ）
材料
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 ・
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL ・ No.2B程度 ・
形状及び仕上げ
表面仕上げ ※ HL程度 ・ 鏡面仕上げ ・
ステンレス鋼板の曲げ加工
※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ（ ・ a角 ・ b角 ・ c角）

10 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率 (16.7.2～4)
※ A種 ・ B種 ・
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・ 普通合板G	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （ ・ ラワン程度 ・ ） 不透明塗料塗り （ ・ しな程度 ・ ） 板面の品質（ ・ 広葉樹1等 ・ ） 接着の程度（ ・ 1類 ・ 2類）	
・ 天然木 化粧鋼板G	樹種名 （ ） 接着の程度（ ・ 1類 ・ 2類）	
・ 特殊加工 ・ 化粧合板G	化粧加工の方法 ・ プリント ・ ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ化粧合板 ・ メラミン化粧合板 接着の程度（ ・ 1類 ・ 2類）	
・ ＭＤＦG		

表面板の厚さ ※ 標準仕様書(表16.7.6)による
引き戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
・ 適用しない ・ 適用する
・ かまち戸
かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ）
見込み寸法 ※ 36mm ・ 建具表による ・
・ ふすま
張りの種別（ ・ Ⅰ型 ・ Ⅱ型 ）
上張り（押入等の裏側以外）
・ 鳥の子 ・ 新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ
・ 塗り縁 ・ 生地縁（素地） ・生地縁（ｳﾚﾀﾝｸﾘｱｰ塗装）
見込み寸法
※ 19.5mm ・建具表による ・
・ 戸ぶすま
表面材の仕上げ ・ 建具表による ・
見込み寸法 ※ 30mm ・ 建具表による ・
・ 縦張り障子
見込み寸法 ※ 30mm ・ 建具表による ・
枠、くつずりの材料 ・ 建具表による ・

11 建具用金物

・ シリンダー箱錠 (16.8.2～16.8.4)(表16.8.1)
・ ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ 材質 ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・ ｽﾃﾝﾚｽ ・ 黄銅
座金 ・ 丸座 ・ 長座
・ 握り玉 材質 ・ ｽﾃﾝﾚｽ
・ 本締まり錠（品質、性能、試験方法）建築材料等品質性能表による
・ 空錠
・ ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ 材質 ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・ ｽﾃﾝﾚｽ ・ 黄銅
座金 ・ 丸座 ・ 長座
・ 握り玉 材質 ・ ｽﾃﾝﾚｽ
・ グレモン錠
・ ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ 材質 ・ 亜鉛合金 ・ ｽﾃﾝﾚｽ
製造所 ・ 図示
・ ピボットヒンジ
・ カバー部 材質 ・ ｽﾃﾝﾚｽ ・ 亜鉛合金
・ フロアヒンジ ・ Grade1 ・ Grade2 カバー部材質 ・ ｽﾃﾝﾚｽ
・ ヒンジクローザー(丁番型) 材質 ・ 鋼(焼き付け塗装)
・ ヒンジクローザー(ピボット型) 材質 ・ 鋼(焼き付け塗装)
・ ドアクローザー ・ Grade1 ・ Grade2 材質 ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金
・ 押棒、押板 材質 ・ ｽﾃﾝﾚｽ ・ 黄銅 ・ 合成樹脂
・ アームストッパー 材質 ・ 鋼(クロームめっき) ・ ｽﾃﾝﾚｽ
・ クレセント 材質 ・ 建具製造所の仕様による
・ 排煙オペレーター ・ 埋込 ・ 露出

12 鍵

・マスターキー ・ 製作する（ ・ 新規 ・ 既存にあわせる） (16.8.4)
鍵の製作本数 ・ 各室3本1組(室名札付き) ・
鍵箱 ・ なし
・ あり 種類 ・鋼製市販品 ・
形式 ・ 30本入り（ ）個 ・ 60本入り（ ）個
・ 120本入り（ ）個 ・ 本入り（ ）個

13 自動ドア開閉装置

戸の開閉方式 ・ 建具表による ・ (16.9.2、3)
・ 引き戸用駆動装置
性能値
・標準仕様書(表16.9.1)による
（防錆 ・ 適用する ・ 適用しない ）
・以下による
種類・開閉方式 （ ）
耐電圧 （ ）
温度上昇 （ ）
耐久性(ｻｲｸﾙ) （ ）
防錆 （ ）
電源 （ ）
・ 車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置
・標準仕様書(表16.9.2)による
（防錆 ・ 適用する ・ 適用しない ）
・以下による
耐電圧 （ ）
温度上昇 （ ）
耐久性(ｻｲｸﾙ) （ ）

16 建具工事（続き）

防錆　（　　）
電源　（　　）
・ 引き戸用検出装置
性能値
・標準仕様書(表16.9.3)による
（防錆　・ 適用する　・ 適用しない ）
・以下による
耐電圧　（　　）
防錆　（　　）
防滴　（　　）
電源　（　　）
引き戸用検出装置の種類　（標準仕様書(表16.9.4)による）
・ 建具表による　・
（防錆　・ 適用する　・ 適用しない ）
タッチスイッチの種類
・ 無線式タッチスイッチ　・ 光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房スイッチの種類
・ 大型押しボタンスイッチ　・ 非接触スイッチ
凍結防止装置　・ 適用する　・ 適用しない

14 自閉式上吊り引戸装置　(16.10.3)(表16.10.1)
性能値等
・標準仕様書(表16.10.1)による
・以下による
手動開き力　（　　）
手動閉じ力　（　　）
閉じ速度の調整　（　　）
制動区間　（　　）
開閉繰返し　（　　）
耐衝撃性　（　　）

15 重量シャッター　(16.11.2、3)
シャッターの種類
・ 管理用シャッター　・ 外壁用防火シャッター
・ 屋内用防火シャッター　・ 防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度　（　　）Pa
開閉方式による種類　・ 上部電動式(手動併用)　・ 上部手動式
安全装置
電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置
（設置個所　・ 建具表による　・　　）
電動式シャッターの障害物感知装置
（設置個所　・ 建具表による　・　　）
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置
・ 危害防止装置
・「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和48年12月28日建設省告示第2563号）に定める基準に適合するもの
（設置個所　・ 建具表による　・　　）
リモコンの有無　・ なし
・ あり（ ・建具表による　・リモコン個数　　個）
電動式の場合の電源　・ 三相200V 0.75kW以下（過電流保護装置付）
管理用シャッターのシャッターケース　・ 設ける　・ 設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　・ JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯）
めっきの付着量　・ Z12又はF12　・
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板　・ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・

16 軽量シャッター　(16.12.2～4)
開閉方式の種類　・ 手動式　・ 上部電動式（手動併用）
耐風圧強度（　　）Pa
シャッターケース　・ 設ける　・ 設けない
安全装置
電動式シャッターの障害物感知装置
（設置個所　・ 建具表による　・　　）
スラットの材質の種類
・ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（ ・ Z06又はF06　・　　）
・ JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウムー亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（ ・ AZ90　・　　）
スラットの形状　・ インターロッキング形　・ オーバーラッピング形
ガイドレール、座板の材質　・ ステンレス(SUS304)　・ 溶融亜鉛めっき鋼板
電動式の場合の危害防止機構　・ あり（障害物感知装置自動閉鎖型）　・なし
電動式の場合の電源　・ 単相100V（過電流保護装置付）　・

17 オーバーヘッドドア

ｾｸｼｮﾝ材による区分	耐風圧性能区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙによる材料
・ ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ ・ ﾌｧｲﾊﾞｰﾌﾟﾗｽﾁｯｸﾀｲﾌﾟ	・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	・ ﾊﾞﾗﾝｽ式 ・ ﾁｪｰﾝ式 ・ 電動式	・ ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形 ・ ﾛｰﾍｯﾄﾞ型 ・ ﾊｲﾘﾌﾄ型 ・ ﾊﾟｰﾁｶﾙ型	・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板

オーバーヘッドドアの障害物感知装置
（設置個所　・ 建具表による　・　　）

18 ガラス　(9.7)(16.14.2～4)(図16.14.1)
・ フロート板ガラスの品質及び厚さの呼びによる種類
・建具表による　・
・ 型板ガラスの厚さによる種類
・建具表による　・
・ 網入りガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
・建具表による　・
・ 合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
・建具表による　・
形状による種類
・平面合わせガラス　・ 曲面合わせガラス
落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
・ Ⅰ類　・ Ⅱ-1類　・ Ⅱ-2類　・ Ⅲ類
・ 強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
・建具表による　・
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・ Ⅰ類　・ Ⅲ類
・ 熱戦吸収ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
・建具表による　・
性能による種類
・ 1種　・ 2種
・ 複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
・建具表による　・
断熱性による区分
・ T1　・ T2　・ T3　・ T4　・ T5　・ T6
日射取得性、日射遮蔽性による区分
・ G　・ S
乾燥気体の種類
・ 空気　・ アルゴン　・
・ 熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による　・
日射遮蔽性による区分
・ 1種　・ 2種　・ 3種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が2種の場合）
・ A種　・ B種
映像調整
・ 行わない　・ 行う
・ 倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類　・ 建具表による　・
ガラス留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	・ ｼｰﾘﾝｸﾞ材(SR-1) ・ ｶﾞｽｹｯﾄ ・ ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾁｬﾝﾈﾙ形 ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示 ・
・ 鋼製及び鋼製軽量	・ ｼｰﾘﾝｸﾞ材(SR-1) ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示 ・
・ ｽﾃﾝﾚｽ製	・ ｼｰﾘﾝｸﾞ材(SR-1) ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示 ・
・ 樹脂製	・ ｼｰﾘﾝｸﾞ材(SR-1) ・ ｶﾞｽｹｯﾄ ・ ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾁｬﾝﾈﾙ形 ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示 ・

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

19 ガラスフィルム

種類	記号 内貼り用	記号 外貼り用	その他性能等
・ 日射調整ﾌｨﾙﾑG	・ SC-1	・ SC-2	
・ 低放射ﾌｨﾙﾑ	・ LE		
・ 衝撃破壊対応ｶﾞﾗｽ飛散防止ﾌｨﾙﾑ	・ GI-1	・ GI-2	
・ 層間変位破壊対応ｶﾞﾗｽ飛散防止ﾌｨﾙﾑ	・ GD-1	・ GD-1	
・ ｶﾞﾗｽ貫通防止ﾌｨﾙﾑ	・ DF		

品質は、JIS A 5759による

17 カーテンウォール工事

1 取付方法、性能等　(17.1.3)(17.2.2)(17.3.2)
取付方法　・ 層間方式　・ 柱、梁方式　・ 方立方式
・ ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ方式　・
性能

耐風圧性	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性(℃)
					・ 30分	・ 80
					・ 1時間	・ 70
					・	・ 60
						・

耐風圧性
1章 適用区分による風圧力の（ ・1.0　・ 1.15　・ 1.3 ）倍の風圧力に対応した工法
主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支店間距離(h)	耐風圧性能
4m以下	・ たわみ量が±(1/150)×hかつ絶対量20mm以下であること ・
4mを超える	・

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
性能の確認及び判定方法
※ 性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督職員の承諾を受ける

2 メタルカーテンウォール　(17.2.2、3)(17.2.5)
金属系材料の種類　・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ材　・ 鋼材　・ ｽﾃﾝﾚｽ鋼材
シーリング材の種類(目地等)　種類及び寸法等　・ 図示　・
ガラスの取り付け材料
・ ｼｰﾘﾝｸﾞ　種類　・ SR-2　・ SR-1
支持方法　・ 4辺支持　・
・ 構造ｶﾞｽｹｯﾄ　種類　・ ｸﾛﾛﾌﾟﾚﾝ系　・ EPDM系　・ ｼﾘｺｰﾝ系
寸法　・ H型　・ Y型　・ C型
ｶﾞﾗｽ板厚（　　）　支持枠の厚さ（　　）
ｳｪﾌﾞの寸法（　　）
断熱材G
種類（　　）　厚さ(mm)（　　）
施工箇所　・ 図示　・
形状および仕上げ
製品の寸法許容差　※ 標準仕様書(表17.2.1)による　・
見え掛り部の仕上げ
（アルミニウム材の場合）　規格等　標準仕様書(16.2.3)による
種別　標準仕様書(表14.2.1)による
・
着色　・ 標準色　・ 特注色
（鋼材及びステンレスの場合）　・
ガラス溝の寸法、形状等
・ カーテンウォールの製造所の仕様　・
取付
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅　・ ±3mm　・
目地の芯の通り　・ 0～2mm　・
目地両側の段差　・ 0～2mm　・
各階の基準墨から各部材までの距離　・ ±3mm　・
耐火処理
適用部位　・ 図示　・
材料、種別　・ 図示　・

3 ＰＣカーテンウォール　(17.3.2～17.3.5)(表17.3.1)(表17.3.2)
材料
コンクリート
種類　・ 普通コンクリート　・ 軽量コンクリート1種　・
品質　設計基準強度(Fc)　・ 30N/mm2　・
スランプ　・ 12cm　・
気乾単位容積質量　・ 普通コンクリートの場合 2.1t/m3を超え2.5t/m3以下
・ 軽量コンクリートの場合 1.8t/m3～2.1t/m3以下
単位水量の最大値　・ 185kg/m3　・
鉄筋　種類の記号　・ SD295　・
補強鉄線　径(mm)　・ 3.2　・ 4.0　・ 5.0　・ 6.0
網目寸法　・
シーリング材の種類（目地等）
種類及び寸法等　・ 図示　・
ガラスの取り付け材料
・ 構造ｶﾞｽｹｯﾄ　施工箇所　・ 図示　・
材質　・ ｸﾛﾛﾌﾟﾚﾝ系　・ EPDM系　・ ｼﾘｺｰﾝ系
寸法(mm)　・ H型　・ Y型　・ C型
ｶﾞﾗｽ板厚（　　）
支持枠の厚さ（　　）
ｳｪﾌﾞの寸法（　　）
耐火処理
適用部位　・ 図示　・
材料、種別　・ 図示　・
断熱材
種類（　　）　厚さ(mm)（　　）
施工箇所　・ 図示　・

先付けの材料
・ 表面仕上げ材　（ ・ セラミックタイル　・ 石材）
・ 建具枠
・ ゴンドラ用ガイドレール
・
形状および仕上げ
製品の見え掛り部の寸法許容差
辺長　・ ±3mm　・
対角線長の差　・ 0～5mm　・
版厚　・ ±2mm　・
開口部内法寸法　・ ±2mm　・
ねじれ、反り　・ 0～5mm　・
曲がり　・ 0～3mm　・
面の凹凸　・ 0～3mm　・
先付け金物の位置　・ 0～5mm　・
ＰＣカーテンウォールの仕上げ　・
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
・ 図示　・

18 塗装工事

1 材料　(18.1.3)
内部に使用する塗料は、原則水性系のものとする
防火材料
・ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・ 次の箇所を除き防火材料とする
（箇所　　）

2 素地ごしらえ　(18.2.2～18.2.7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ A種　・ B種
	透明塗料塗りの場合	・ A種　※ B種
鉄鋼面(DP以外)		・ A種　※ B種　・ C種
鉄鋼面(DPのみ)		・ A種　・ B種　※ C種
亜鉛めっき鋼板		・ A種　・ B種
モルタル面及びプラスター面		・ A種　※ B種
コンクリート面(DP以外)及びＡＬＣパネル面		・ A種　※ B種
押出成形セメント板面		・ A種　・ B種
コンクリート面(DPのみ)		・ A種　・ B種
せっこうボード面及び	目地 継目処理工法	・ A種　※ B種
その他ボード面	目地 継目処理工法以外	・ A種　※ B種

3 錆止め塗料塗り　(18.3.2、3)

下地面等	塗料の種別	錆止め塗料の種別	工程の種別	
鉄鋼面	SOP	As種	見え掛り A種	見え隠れ B種
	DP	Cs種及びDs種	標準仕様書(表18.3.4)	
	EP-G	・ Bs種　・ As種	見え掛り A種	見え隠れ B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	・ 鋼製建具等 ・ As種　・ Bs種	鋼製建具等 A種	左記以外 B種
		・ その他 ・ Az種　・ Bz種	鋼製建具等 A種	左記以外 B種
	DP	Bz種	鋼製建具等 A種	左記以外 B種
	EP-G	Cz種	鋼製建具等 A種	左記以外 B種

鉄鋼面で錆止め塗装のままの場合の種別
見え掛り部分　※ A種　・
見え隠れ部分　※ B種　・

4 塗装　(18.4.1～18.13.2)

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料G
・ 合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り(SOP)	木部屋外	※ A種　・ B種	—	—
	木部屋内	・ A種　※ B種		—
	鉄鋼面	・ A種　※ B種		・ 適用する
	亜鉛めっき面	—		・ 適用する
・ ｸﾘｱﾗｯｶｰ塗り(CL)		・ A種　※ B種	—	—
・ ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		・ A種　※ B種	—	—
・ 耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	—	上塗り塗料の等級(　　)	・ 適用する
	亜鉛めっき鋼面	—	上塗り塗料の等級(　　)	—
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・ A種　・ B種 ・ C種	—	—
・ つや有り合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	・ A種　※ B種	—	—
	屋内の鉄鋼面	・ A種　※ B種	—	—
・ 合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP)		・ A種　※ B種	—	—
・ ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り(UC)		・ A種　※ B種	—	—
・ ﾋﾞｸﾞﾍﾟﾝﾄｽﾃｲﾝ塗り		—		—
・ 木材保護塗料塗り(WP)		・ A種　※ B種	—	—

高日射反射率塗料を適用する場合の適用箇所は屋上又は屋根面の金属面とする
クリアラッカー塗り(CL)A種の工程2の適用
・ 適用する（着色剤：　・ 溶剤系着色剤　・ 油性染料着色剤）
・ 適用しない
ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)の工程1の適用　・ 適用する　・ 適用しない

5 フッ素樹脂塗装
打放しコンクリート面保護工法
（下塗り材）　水性 浸透性吸水防止剤
（上塗り材）　・ 水性フッ素樹脂クリアー　・ 水性フッ素樹脂カラークリアー

18 塗装工事（続き）

6 焼付塗装

素材	焼付種別	仕上げ	コート	ベーク	部位
・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・ ﾌｯ素樹脂	・ ｿﾘｯﾄﾞ			
	・ ｳﾚﾀﾝ樹脂	・ ﾒﾀﾘｯｸ			
	・ ｱｸﾘﾙ樹脂				
・ ｽﾃﾝﾚｽ	・ ﾌｯ素樹脂	・ ｿﾘｯﾄﾞ			
	・ ｳﾚﾀﾝ樹脂	・ ﾒﾀﾘｯｸ			
	・ ｱｸﾘﾙ樹脂				
・ 亜鉛めっき鋼板	・ ﾌｯ素樹脂	・ ｿﾘｯﾄﾞ			
	・ ｳﾚﾀﾝ樹脂	・ ﾒﾀﾘｯｸ			
	・ ｱｸﾘﾙ樹脂				

19 内装工事

1 下地の工法

施工箇所の下地がセメント系下地及び木質下地以外の場合の接着剤の種別　(19.2.3)
・ 図示　・
標準仕様書(19.2.3)(ｱ)～(ｳ)以外の下地の工法
・ 図示　・

2 ビニル床シートG

(19.2.2～19.2.3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
※ FS（複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ）	・ 無地	※ 2.0	
・	・ ﾏｰﾌﾞﾙ柄	・ 2.5	
・	・ 柄物	・	

接合部の処理　※ 熱溶接工法　・

3 ビニル床タイルG

(19.2.2)

種類	色柄	寸法	厚さ(mm)	備考
・ TT（単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ(接着型)）	・ 無地	・ 300×300	※ 2.0	
・ FT（複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ(接着型)）	・ 柄物	・ 450×450	・ 2.5	
※ KT（ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）		・ 500×500	・ 3.0	
・ F0A（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ(置敷き型)）		・	・	
・ F0B（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ(置敷き型)）				

4 特殊機能床材

(19.2.2)

種類	厚さ(mm)	寸法	性能	備考
・ 帯電防止床シート	・		・	
・ 帯電防止床タイル	・	・	・	
・ 耐動荷重性床シート	・			
・ 防滑性床シート	・			
・ 防滑性床タイル	・	・		

5 ビニル幅木

材質の種類　・ 軟質　・ 硬質　(19.2.2)
高さ(mm)　※ 60　・ 75　・ 100　・
厚さ(mm)　※ 1.5以上

6 ゴム床タイル

種類　・ 単層品　・ 積層品　色柄（　　）
厚さ(mm)　・ 3.0　・ 4.5　・ 6.0　・ 9.0　寸法(mm)（　　×　　）

7 カーペット敷きG

・ 織じゅうたん　(19.3.2、3)(表19.3.1)(表19.3.2)

織り方	パイル形状
・ ｳｨﾙﾄﾝｶｰﾍﾟｯﾄ　・ ﾀﾞﾌﾞﾙﾌｪｰｽｶｰﾍﾟｯﾄ	・ ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ　・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ
・ ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰｶｰﾍﾟｯﾄ	・ ｶｯﾄ/ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ

色柄　※ 模様のない無地　・
パイル糸の種類等
・ 無地の織じゅうたんの種別　（・ A種　・ B種　・ C種）
・
帯電性　・ 適用する　・ 適用しない
織じゅうたんの接合方法　※ ﾋｰﾄﾎﾞﾝﾄﾞ工法　・つづり縫い
下敷き材　※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm
・

・ タフテッドカーペット

パイルの形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・ ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・ 5～7　・	・ 全面接着工法	・ 適用する	
・ ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	・ 4～6　・	・ ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・ 適用しない	
・ ｶｯﾄ･ﾙｰﾌﾟ併用	・			

下敷き材（グリッパー工法の場合）
※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm
・

・ タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法	厚さ(mm)	備考
※ ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	帯電防止及び防汚加工品
・ ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・ ｶｯﾄ･ﾙｰﾌﾟ併用	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	

色柄　・ 無地　・ 柄物
タイルカーペットの敷方
平場　※ 市松敷き　・ 模様流し　・
階段部分　※ 市松敷き　・ 模様流し　・
見切り、押え金物　材質（　　）
種類（　　）
形状等　・ 図示　・

8 合成樹脂塗床

(19.4.2、3)(表19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・ 厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
・ 厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・ 薄膜流し展べ工法 ・ 厚膜流し展べ工法 ・ 樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ
・ 薄膜型塗床材			※ 平滑仕上げ

9 フローリング張りG

・ 単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ(ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ1等)　(19.4.2、3)(表19.5.1～6)
工法　・ 釘留め工法（・ 根太張り　・ 直張り）
・ 接着工法
樹種　・ なら　・
間伐材等の適用　・ 適用する　・ 適用しない
・ 単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ(ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ1等)
樹種　・　厚さ(mm)　・　大きさ　・
間伐材等の適用　・ 適用する　・ 適用しない
・ 複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ
工法　・ 釘留め工法（・ 根太張り　・ 直張り）
・ 接着工法
樹種　・ なら　・
種別　・ A種　・ B種　・ C種
間伐材等の適用　・ 適用する　・ 適用しない
接着工法の場合の不陸緩和剤
※ 合成樹脂発泡シート　・
・ 現場塗装仕上げ
・ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のまま、ワックス塗り

10 畳敷き

種別　・ A種　・ B種　・ C種　(19.6.2)(表19.6.1)
・D種（畳床　・ KT-Ⅰ　・ KT-Ⅱ　・ KT-Ⅲ　・ KT-K　・ KT-N）
下地の種類
・標準仕様書(表12.6.1)による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン）G
・
衝撃緩和型畳（畳表　・ C1　・ C2）

11 せっこうボード、その他ボード及び合板張り

木質系セメント板G (19.7.2、3)(表19.7.1)

種類	厚さ(mm)、規格等
・ 硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板(HW)	・ 15　・ 20　・ 25　・図示
・ 中質木毛ｾﾒﾝﾄ板(MW)	
・ 普通木毛ｾﾒﾝﾄ板(NW)	
・ 硬質木片ｾﾒﾝﾄ板(HF)	・ 12　・ 15　・ 18　・ 21　・ 30
・ 普通木片ｾﾒﾝﾄ板(MF)	・ 図示

繊維強化セメント板

種類	厚さ(mm)、規格等
・ けい酸ｶﾙｼｳﾑ板(ﾀｲﾌﾟ2) 普通ﾎﾞｰﾄﾞ 0.8FK	・ 6　・ 8　・ 図示 ・ 突付け　・ 目透し
・ 化粧けい酸ｶﾙｼｳﾑ板(ﾀｲﾌﾟ2)	・ 910×2,730　・ (目地)　・ 目透しシーリング工法 ・ ｼﾞｮｲﾝﾄ工法（・ｱﾙﾐ製　・ 樹脂製） (厚さ)　・ 6(不燃)　・ 8(不燃)　・ (仕上)　・ UV塗装　・ ｼｰﾄ張り　・ 突板張り ・ 一般塗装　・

火山性ガラス質複層板

種類	厚さ(mm)、規格等
・ 火山性ｶﾞﾗｽ質複層板 種類　・ 図示　・	・ 図示　・

繊維板G

種類	厚さ(mm)、規格等
・ ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ(MDF)	・ 図示 ・ 3　・ 7　・ 9　・ 12　・
・ ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(無処理) ・ 素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ 未研磨板(RN) ・ 研磨板(RS) ・ 内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(DI) ・ ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(処理) ・ 素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ 未研磨板(RN) ・ 研磨板(RS) ・ ｳﾚﾀﾝ化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ	・ 図示 ・ 2.5　・ 3.5　・ 5　・ 7　・
・ ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ ・ A級ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ(A-1B) ・ 天井仕上げ材 ・ 内装仕上げ材	・ 図示 ・ 9　・ 12　・ 15　・ 18　・

パーティクルボードG

種類	厚さ(mm)、規格等
・ 単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・ 無研磨板(VN) ・ 研磨板(VS)	・ 図示 ・ 10　・ 12　・ 15　・ 18 ・
・ 化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・ 単板オーバーレイ(DV) ・ ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ(DO) ・ 塗装(DC)	・ 図示 ・ 10(難燃)　・ 12(難燃)　・

パーティクルボードG

種類	厚さ(mm)、規格等
・ 単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・ 無研磨板(VN) ・ 研磨板(VS)	・ 図示 ・ 10　・ 12　・ 15　・ 18 ・
・ 化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・ 単板オーバーレイ(DV) ・ ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ(DO) ・ 塗装(DC)	・ 図示 ・ 10(難燃)　・ 12(難燃)　・

吸音材G

種類	厚さ(mm)、規格等
・ ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板(DR) ・ ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ ・ 凹凸ﾀｲﾌﾟ	・ 9(難燃)　・ 12(難燃)　・15(不燃) ・
・ ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ(1号)	・ 図示　・ 25　・
・ ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ(32K)	・ 25(ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包み)　・

せっこうボード

種類	厚さ(mm)、規格等
・ せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R)	・ 12.5(不燃)　・ 15(不燃)　・
・ ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-S)	・ 12.5（・ 不燃　・ 準不燃）
・ 強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-F)	・ 12.5(不燃)　・ 15(不燃)　・
・ 化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-D)	・ 木目 12.5(不燃) 幅440mm程度 模様（・ 柾目　・ 板目）専用下地材あり ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様 9.5(準不燃)
・ せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ(GB-L)	・ 9.5
・ 不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-NC) ・ 化粧なし(下地張り用) ・ 化粧あり(ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様)	・ 9.5(不燃)

合板類

種類	厚さ(mm)、規格等
・ 普通合板G 表板の樹種名（　　） 板面品質（　　） 防虫処理　・ 行う　・ 行わない	・ 図示　・
・ 天然木化粧板G 化粧板の樹種名（　　） 防虫処理　・ 行う　・ 行わない	・ 図示　・
・ 特殊加工化粧板 化粧加工の方法 ・ ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ ﾌﾟﾘﾝﾄ ・ 塗装　・ 表面性能　・ 防虫処理　・ 行う　・ 行わない	・ 図示　・

その他ボード類

種類	厚さ(mm)、規格等
・ ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板	・ JIS K 6903による ・ 1.2　・
・	

天井のボード類（ロックウール吸音板を除く）の重ね張りを行う場合
・ 図示による　・
合板類の張付け　・ A種　・ B種
せっこうボードの目地工法等
目地工法の種類　・仕上げ表による
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類　・ ﾍﾞﾍﾞﾙｴｯｼﾞ　・ ｽｸｴｱｴｯｼﾞ
遮音シール材
・ 適用する　・ アクリル系又はウレタン系シーリング材
・ ジョイコンパウンド（JIS A 6914）
・ 適用しない

12 壁紙張り

(19.8.2)(19.8.3)

施工箇所	壁紙の種類：紙	繊維	プラスチック	無機質	その他	防火性能	商品名（程度）
	・	・	・	・	・	・ 不燃　・ 準不燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃　・ 準不燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃　・ 準不燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃　・ 準不燃	

モルタルプラスター面の素地ごしらえ　・ A種　※ B種
コンクリート面の素地ごしらえ　・ A種　※ B種
せっこうボード面の素地ごしらえ　・ A種　※ B種

13 断熱材G

パーティクルボード　(19.9.2)(19.9.3)

種類	厚さ(mm)	備考
・ ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材 ・	・	
・ 押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材(ｽｷﾝ層なし) ・ 2種bA　・ 3種bA　・ 3種bC　・ 3種bD	・	
・ 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材	・	
・ ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材	・	
・ ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材	・	

施工箇所
・ 床版　・ 図示　・ 屋根スラブ下　・接地床(標準詳細図7-01-2)
・ 壁　・ 外壁内側部分(標準詳細図7-01-2)
・ 除外する室等（　　）
・

・ 断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　・ A種1またはA種1H　・
吹付け厚さ　・25mm　・ 30mm
施工箇所　・図示
・窓廻り等の断熱材補修部分、ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ廻りの床版下等、
部分的に後張りとしなければならない箇所
（品質・性能・試験方法）　建築材料等品質性能表による

14 床下地材

・ 乾式遮音二重床用床下地材（樹脂製支柱式）　・ 断熱性床下地材
BL認定及び「建築物の遮音性能基準と設計指針（第2版）（日本建築学会）」で規定する「床衝撃音レベルに関する適用等級」の2級程度を有するものとし、製造所の仕様による

施工箇所	床仕上げ材天端高さ	遮音性能（ｽﾗﾌﾞ厚150mm）：軽量床衝撃音	重量床衝撃音
・ 畳下地	・ 150　・ 180	・ LL-50	・ LH-55
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ類下地	・	・	・

15 化粧塩ビシート

下記に示す製造所の商品程度とする
（　　）

16 システム天井

種別		Tバーの材質	備考
・ ｸﾞﾘｯﾄﾞﾀｲﾌﾟ		・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ 鋼製	
・ ﾗｲﾝﾀｲﾌﾟ	・ ｼﾝｸﾞﾙ ・ ﾀﾞﾌﾞﾙ		
・ ﾛ型ﾀｲﾌﾟ			

下記に示す製造所の商品程度とする
（　　）

17 浴室天井材

材質	幅(mm)	備考
・ 硬質塩ビ製 ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製（準不燃品） ・	・ 300 ・ 100 ・	断熱材を裏打ちしたもの 付属品の材料は製造所の仕様による

年　度	設計年月	工事名	建築士法第20条第１項に基づく表示	図　面　名　称	縮　尺
		R8.5		特記仕様書（その10）	Ｎｏ．

20 ユニット及びその他の工事

1 フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	寸法	高さ(mm)	所定荷重(N)	表面仕上材	備考
	・ 450角以上 ・ 600角以上 ・	・ 100 ・ 120 ・	・ 3000 ・ 5000 ・	・ 帯電防止床ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	
	・ 450角以上 ・ 600角以上 ・	・ 100 ・ 120 ・	・ 3000 ・ 5000 ・	・ 帯電防止床ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	
	・ 450角以上 ・ 600角以上 ・	・ 100 ・ 120 ・	・ 3000 ・ 5000 ・	・ 帯電防止床ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	

適用地震時水平力　1階及び地階　・ 0.6G以上
中間階（　～　階）　・ 0.6G以上　・ 1.0G以上
最上階（　階）　・ 1.0G以上
帯電防止床タイル　・ 置敷きタイプ　・パネル一体タイプ
（パネル一体タイプ以外の仕上げ材は別途内装工事とする）
寸法精度　※ 標準仕様書(20.2.2)(2)(ｵ)(a)～(c)による
・ 以下による
ﾊﾟﾈﾙの長さの寸法精度　（　）
ﾊﾟﾈﾙの平面形状(角度)の寸法精度　（　）
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの高さの寸法精度　（　）
ローリングロード性能　・ 適用する　（適用室　）
・ 適用しない
ﾛｰﾘﾝｸﾞﾛｰﾄﾞ性能については所定荷重1,000N(5,000Nの積載荷重は1,000N以上(任意))による繰返し試験後、残留変形が3.0mm以下であること(ﾊﾟﾈﾙ面に目視による著しいわだち及び損傷がないこと。かつ、使用上有害ながたつきがないこと)
帯電防止性能　・ 評価値(U)≧0.6以上　・ 評価値(U)≧1.2以上
感電防止性能　漏えい抵抗≧1×10⁶Ω
・ 2重床用複合アウトレット用開口
適用室　（　）
開口の数　フロア面積8m2につき1箇所かつ予備開口を14m2につき1箇所
開口の大きさ　以下の仕様が入ったアウトレットが収まる大きさ
(電源)コンセント 2P15A接地極付×2
(通信)情報用モジュラージャック 8極8芯×1
取付け方法　ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ製造所の仕様とする

2 可動間仕切り

(20.2.3)

構造形式による種類	構造基材の種類 ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ	ﾊﾟﾈﾙ表面材の仕上げ	遮音性(db/500Hz)	防火性能
・ ｽﾀｯﾄﾞ式(内蔵) ・ ｽﾀｯﾄﾞ式(露出) ・ ﾊﾟﾈﾙ式 ・ ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式			・ ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付 ・ ｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・ 壁紙張り ・	・ 36未満 ・ 36以上	・ 不燃 ・

表面仕上げ材を壁紙とする場合の品質、性能は標準仕様書第19章による
パネル内に取付ける建具　・ あり　（・ 図示　・　）
・ なし
ガラス留め材　・ ガスケット　・ シーリング

3 移動間仕切り

(20.2.4)

構造形式	操作方法による種類	パネル圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	ﾊﾟﾈﾙ表面材 材質	仕上げ	遮音性(db/500Hz)
・ 平行方向移動式 ・ 二方向移動式	・ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式	・ ﾌﾟｯｼｭ式 ・ ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・	・ 60程度 ・ 100程度	・ 鋼板 ・	・ 焼付塗装 ・ 壁紙張り ・	・ 36未満 ・ 36以上

表面仕上げ材を壁紙とする場合の品質、性能は標準仕様書第19章による
ハンガーレールの取付け下地の補強
※ 取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
・ 図示
パネルをランナーに取付ける部品
※ ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
・
ハンガーレール及びランナー
※ パネル重量の5倍の荷重をパネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して
あと施工アンカー　・ 使用する　・ 使用しない
使用する場合　（種類：　材質：　寸法：　）

4 トイレブース

(20.2.5)

表面材の材料	色柄	脚部形状	ドアエッジ 形状	材質
・ ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板 ・ ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板 ・	・ 無地 ・ 柄物	※ 幅木ﾀｲﾌﾟ ・	・ 標準 ・ R	※ 製造所の仕様 ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ ｽﾃﾝﾚｽ製

吊り方式　・ 中心吊り、戸当たり付　・

5 手すり

(20.2.6)

・ 集成材手すり

形式	径	材種	仕上
・ 1段	・ 35φ　・ 45φ　・	・ ﾀﾓ	・ CL
・ 2段	・ 35φ　・　・	・	・

・ 既製手すり

形式	径	ブラケット	備考
・ O型(1段)	・ 40φ　・	ｱﾙﾐ合金製(心材共)	指づめ防止材共
・ O型(2段)	・ 34φ　・		

点字表示板　（　）箇所
JIS T 0921に基づく点字の表示原則及び表示方法による
・ ポリカーボネートボード製　大きさ 120×150程度 厚み 0.1mm程度
・ 塩ビ製　大きさ 100×125程度 厚み 0.1mm程度

6 視覚障害者用床タイル

(11.2.2)(19.2.2)

施工箇所		材種	寸法(mm)	厚さ(mm)
屋内		・ 塩化ﾋﾞﾆﾙ製	・ 300×300　・	・ 7.0　・
		・ ｾﾗﾐｯｸﾀｲﾙⒼ	・ 300×300　・	・ 17程度
		・ ﾚｼﾞﾝｺﾝｸﾘｰﾄ製	・ 300×300　・	・ 30　・
屋外		・ ｾﾗﾐｯｸﾀｲﾙⒼ	・ 300×300　・	・ 17程度
		・ ﾚｼﾞﾝｺﾝｸﾘｰﾄ製	・ 300×300　・	・ 30　・
		・ ｺﾝｸﾘｰﾄ製	・ 300×300　・	・ 60

視覚障害者用ブロック等の突起の形状及びその配列はJIS T 9251による
・ 樹脂系点字鋲(タイルカーペット用)
寸法　・ 300角　・ 500角
色　・ 黄色　・
留め付け　両面からの挟み込みホック式又は接着式

7 階段滑り止め

(20.2.7)

材種及び形状等
材種　・ ステンレス製　・ 黄銅製押出形材　・ アルミニウム製押出形材
・
形状　・ タイヤ型(タイヤの材質 ゴム又は合成樹脂等)　・ タイヤレス型
端部の形状　・ フラットエンドあり　・ フラットエンドなし
寸法(幅)　・ 35mm程度　・ 40mm程度　・ 50mm程度
取付け工法　※ 接着工法　・ 埋込工法

8 床目地棒

(20.2.8)

床仕上げの異なる箇所には目地棒を入れる
・ ｽﾃﾝﾚｽ製 门型（幅40mm程度、厚1.5mm）（標準詳細図4-31-1）
・ ｽﾃﾝﾚｽ製 6×12（標準詳細図4-31-2）
・ 黄銅製 6×12（標準詳細図4-31-2）

9 黒板及びホワイトボードⒼ

(20.2.9)

・ 黒板　区分　※ 焼付け　・
種類　・ 鋼製黒板　・ ほうろう黒板　・
色　・ 緑　・
・ ホワイトボード

10 鏡

(20.2.10)

取付け箇所 ・ 図示　・
寸法(mm)　・ 図示　・
厚さ(mm)　※ 5　・

11 表示

(20.2.11)

衝突防止表示
・ 設置する　設置場所　・ 図示　・
形状・寸法　・ 30φ　・
材質　・ ｽﾃﾝﾚｽ製　・
・ 設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示
※ 消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等（案内用図記号は、JIS Z 8210による）
・ 図示による

12 煙突ライニング

(20.2.13)

適用安全仕様温度　・ 400℃まで　・ 650℃まで　・
工法　・ 鋼製ユニット煙突（煙突用成形ライニング材）
・
・ キャスタブル耐火材　煙突用成形ライニング材の製造所の指定する製品とする

13 ブラインド

(20.2.14)

形式	操作方法	種類	ｽﾗｯﾄの種類	ｽﾗｯﾄ幅(mm)	ﾎﾞｯｸｽ､ﾚｰﾙの材種	幅、高さ、取付箇所
・ 横形	・ 手動	※ ｷﾞﾔ式 ・ ｺｰﾄﾞ式 ・ 操作棒式	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製Ⓖ ・	※ 25 ・	※ 鋼製 ・	・ 図示 ・
	・ 電動	―				
・ 縦形	・ 手動	※ 2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・ 1本操作ｺｰﾄﾞ式	・ ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ ｸﾛｽｽﾗｯﾄ ・	・ 80 ・ 100	・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	・ 図示 ・
	・ 電動	―				

縦型ブラインドのスラットの材質
・ アルミスラット：焼付け塗装仕上げ
・ クロススラット：消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は、Ⓖとする

14 ロールスクリーン

(20.2.15)

操作方法	ｽｸﾘｰﾝの材種	その他の材料	幅･高さ･取付箇所	品質等
・ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式 ・ ｺｰﾄﾞ式 ・ 電動式	・ ｶﾞﾗｽ繊維製 ・ 合成･天然繊維製 ・ 木製	・ 製造所の仕様	・ 図示 ・	・

スクリーンの仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は、Ⓖとする

15 カーテン

(20.2.14)

形式		開閉操作	ひだの種類	商品名(程度)	取付箇所
・ ｼﾝｸﾞﾙ ・ ﾀﾞﾌﾞﾙ	・ 片引き ・ 引分け	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動	・ ﾌﾗﾝｽひだ ・ 箱ひだ、つまひだ ・ ﾌﾟﾚｰﾝひだ、片ひだ		・ 図示 ・
・ ｼﾝｸﾞﾙ ・ ﾀﾞﾌﾞﾙ	・ 片引き ・ 引分け	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動	・ ﾌﾗﾝｽひだ ・ 箱ひだ、つまひだ ・ ﾌﾟﾚｰﾝひだ、片ひだ		・ 図示 ・

生地の仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は、Ⓖとする
暗幕カーテンの両端、上部及び召し合せの重なり
※ 300mm以上　・

16 カーテンレール

(20.2.14)

材料による区分　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製又はｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の押出成形型材　・ ｽﾃﾝﾚｽ製
強さによる区分　※ 10-90　・
仕上　※ ｱﾙﾏｲﾄ　・
形状　※ 角型　・
カーテン付属物　フック（ひるかん）　※ 鋼製　・樹脂製

17 ブラインドボックス及びカーテンボックス

溝幅×深さ(mm)　・ 90×150　・ 120×80　・ 120×150　・ 150×80
・ 図示　・
材質　・ 集成材（仕上：　）
・ アルミニウム製 押出型材（市販品）
標準仕様書(表14.2.1)による種別　・ BC-1種　・ BC-2種
色合い　・ 標準色（　）　・ 特注色（　）
・ 鋼製（仕上げ　）

18 コーナービード

材質　・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ押出型材差込型　・
・ シルバー　・ 焼付け　・
施工箇所　・ 図示

19 天井見切縁

材質　・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ押出型材　・ 塩化ﾋﾞﾆﾙ製
施工箇所　・ 仕上表による　・

20 ピクチャーレール

材質　・ アルミニウム押出型材　・
フック　・ 耐荷重30kg程度 2個/m　・

21 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・ 一般型	・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 額縁ﾀｲﾌﾟ ・ 目地ﾀｲﾌﾟ	・ 額縁ﾀｲﾌﾟ ・ 目地ﾀｲﾌﾟ
		・ 気密型			

22 床点検口

材種	寸法	型式		備考
(底板) ・ 鋼製 ・ (枠) ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ (目地) ・ ｽﾃﾝﾚｽ製 ・	・ 450×450 ・ 450×600 ・	・ 一般型 ・ 密閉型	・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 鍵付き ・ 鍵なし

密閉型とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする

23 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・ 垂直方向 ・ 水平方向	・ 完全(全貫通型)	・ 耐火型 ・ 非耐火型	・ あり ・ なし	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛りのみ) ・	・ ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛りのみ) ・ ｼｰﾘﾝｸﾞ材(内外とも)
目地寸法(幅×深さ)(mm)	・ 20×10　・	・ 20×10　・

目地材の品質は、標準仕様書(表9.7.1)による

24 打継止水材

適用箇所　・ＥＶピット
・水膨張性ｺﾝｸﾘｰﾄ打継止水材　寸法：幅20×厚10

25 エキスパンションジョイント金物

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

26 止水板

形式　・ 差込式　・ 据置式　・ 壁張り式
施工箇所　・ 図示

27 エキスパンションジョイント金物

材種	クリアランス	耐火性能	備考
・ アルミニウム製 (?)	・ 100 (?)	・ あり (?)	
・ ステンレス製	・ 150　・	・ なし	

外部は防水型とする

28 造作家具

合板類、MDF、パーティクルボード、接着剤のホルムアルデヒド放散量　）
・規制対象外　・

29 消火器ボックス

・市販品（埋込みﾀｲﾌﾟ）　・

材 質	仕上げ	寸 法	扉	表 示
・ 鋼製 ・	・焼付塗装 ・	・W300×H900程度 ・	・あり ・なし	・絵、文字表示 ・

30 くつふきマット

材種	受け枠	備考
・ 塩化ﾋﾞﾆﾙ又はｺﾞﾑ製 ・ 硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・ ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)製	・ ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304) ・ 硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・	

31 ｽﾃﾝﾚｽ流し台

・優良住宅部品（ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ）　・
上板及びｼﾝｸ底部はｽﾃﾝﾚｽ製、単槽ｼﾝｸ、ﾄﾗｯﾌﾟ付

寸 法	開 戸	引き出し	備 考
・ W1,200×D550～600×H800	・3枚　・	・1段　・	
・ W1,500×D550～600×H800	・4枚　・	・1段　・	
・ W1,800×D550～600×H800	・4枚　・	・1段　・	

32 コンロ台

・優良住宅部品（ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ）　・
ﾃｰﾌﾞﾙﾄｯﾌﾟはｽﾃﾝﾚｽ製、ﾊﾞｯｸｶﾞｰﾄﾞ　（・あり　・なし ）

寸 法	開 戸
・ W600×D550～600×H620	・ 2枚　・
・ W700×D550～600×H620	・ 1枚又は2枚　・

33 吊戸棚

・優良住宅部品（ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ）　・

寸 法	開 戸	棚 板
・ W900×D350～450×H500	・ 2枚　・	・ 1段　・
・ W600×D350～450×H500	・ 2枚　・	・ 1段　・

34 水切棚

・既製品（ｽﾃﾝﾚｽ製一般型）　・

35 フード

・市販品（ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ）　（参考商品名：　）
・標準詳細図6-11-2（ｽﾃﾝﾚｽ板厚　・0.4　・1.0 ）

36 旗竿

材質	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考
・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・ ﾃｰﾊﾟｰ型 ・ 同一断面型		・ ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・ ﾛｰﾌﾟ式	・ 埋込式 ・ ﾍﾞｰｽ式 ・ ﾊﾞﾝﾄﾞ式	

37 旗竿受金物

材種　・ ステンレス製(SUS304)　・

38 車止め支柱

形式		材種	柱径・肉厚(mm)	高さ(mm)
・ 上下式鎖内蔵型	・ 標準品 ・ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式	・ ｽﾃﾝﾚｽ製 ・	・	・
・				

39 フェンス

フェンスの種類及び形状
（参考製品名：　）
・樹脂塗装ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　高さ　（・図示　・　m ）
（参考製品名：　）
・鋼管ﾌｪﾝｽ　高さ　（・図示　・　m ）
（参考製品名：　）
・ｱﾙﾐﾌｪﾝｽ　高さ　（・図示　・　m ）
（参考製品名：　）

40 敷地境界標

・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ製の市販品程度　・金属製（真ちゅう製50角、ｱﾝｶｰ共）

41 プレキャストコンクリート

(20.3.3、4)

コンクリートの設計基準強度
・水ｾﾒﾝﾄ比55%以下、単位ｾﾒﾝﾄ量の最小値300kg/m³を満足する調合強度
・図示
配筋　・配筋を定めた計算書を監督職員に提出する　・図示
取付け方法　・図示　・

42 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

(20.4.2、3)

材 種		種 類	質量区分	備 考
・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	－	－	
・ ｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ	－		・ A　・ B	

積み方　・谷積み　・布積み
目塗り　・図示　・
伸縮調整目地　材種　・図示　・
厚さ　・図示　・

年 度	設計年月	工事名		建築士法第20条第１項に基づく表示	図 面 名 称	縮 尺	
			R8.5		特記仕様書（その11）		Ｎｏ.

20 ユニット及びその他の工事（続き）

43 屋内掲示板

形状　・幅（　　）　×　高さ（　　）　・図示

仕様
・下記に示す製造所の商品程度とする
（　　）
・以下による
枠の材質　※ アルミニウム製　・
表面の材質　※ 塩ビ発泡シート張り　・

44 洗面カウンター

材種　・メラミン樹脂化粧板張り（心材 集成材）
・人造大理石
奥行(mm)　・約450　・約600　・図示

45 防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
・網入り磨き板ガラス	・6.8	・500	アルミ製枠付き
・線入り磨き板ガラス	・	・	

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直下降式（巻取り式）	・不織布（不燃認定品）・	・500 ・800 ・	ガイドレール ・固定式(壁埋込型) ・可動式(天井収納型)
・回転下降式	鋼板製又はｱﾙﾐ製	・500 ・800 ・	表面仕上げ ・天井材張り ・

下降機構　煙感知連動及び手動開放装置(埋込型)

46 屋外掲示板

形状　・幅　　×高さ　・図示
照明器具　・あり　・なし
施錠　・あり　・なし
製造所　下記に示す製造所の商品程度とする
（　　）

21 排水工事

1 屋外雨水排水

材料　(21.2.1、2)(表21.2.1、2)

材種		形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ管	・外圧管(1種)	・B形管 ・	・図示 ・	
・硬質ﾎﾞﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	・RF-VPG ・RS-VUG ・VP ・VU		・図示　・ ・図示　・ ・図示　・ ・図示　・	

基床の厚さ　・図示　・
・呼び径300以下は100mm、呼び径300を超える場合は150mm
基床の種類　・図示　・砂事業　・砂利事業
硬質ﾎﾞﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管の継手に用いる材料　※ 接着剤　・
側溝の形状及び寸法　・図示　・
排水桝の種類　・図示　・
砂事業に用いる材料　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利事業に用いる材料　・再生クラッシャランG　・切込砂利又は切込砕石
・現場打ての場合のコンクリート材料　※ 普通コンクリート　・
設計基準強度　※ 18N/mm2　・
スランプ　※ 15cm又は18cm　・
・現場打ての場合の鉄筋　種類の記号　※ SD295　・
・排水桝が現場打の場合の足掛け金物
・標準仕様書(21.2.2)(6)(ｵ)
材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・鋼製　・合成樹脂被覆加工されたもの　・
・凍上抑制層に用いる材　（　　）
（砂を用いる場合の粒度試験）　・行う　・行わない

2 鋳鉄製ふた

(21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙふた	・水封形 ・簡易密閉型(ﾊﾞｯｷﾝ式) ・密閉型(ﾃｰﾊﾟ･ﾊﾞｯｷﾝ式) ・中ふた付き密閉型(ﾃｰﾊﾟ･ﾊﾞｯｷﾝ式) ・	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用 ・	・あり ・なし	左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

3 グレーチング

(21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき付着量	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・	・	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・	・平形 ・
・ｽﾃﾝﾚｽ製	・受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・	—	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・	—	・平形 ・

4 街きょ、縁石及び側溝

種類、形状及び寸法等　・図示　・　(21.3.1、2)(表21.3.1)
地業の材料　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利事業に用いる材料　・再生クラッシャランG　・切込砂利又は切込砕石
砂利事業の厚さ(mm)　※ 100　・図示
・現場打ちの場合のコンクリート材料　※ 普通コンクリート　・
設計基準強度　※ 18N/mm2　・
スランプ　※ 15又は18cm　・
・現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※ SD295　・　(21.2.1)
表3.2.1「埋め戻し及び盛り土の種別」による　※ B種　・
・凍上抑制層に用いる材　（　　）
（砂を用いる場合の粒度試験）　・行う　・行わない

5 埋め戻し土

22 舗装工事

1 路床

路床の材料　(22.2.2)(22.2.3)(22.2.5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　・B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土G	・図示による ・
・凍上抑制層	※ 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ　・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ　・切込み砂利 ・砂(標準仕様書(表21.2.1)による)	・図示による ・
・ﾌｨﾙﾀｰ層	標準仕様書(22.2.3)(3)による	・図示による ・

路床の構成及び仕上り　・図示
凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験
・行う　・行わない
・路床安定処理
安定処理の方法　・置き換え工法　・安定処理工法
路床安定化処理用添加材料
種類　・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　・高炉ｾﾒﾝﾄB種G
・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種
・生石灰　（・特号　・1号）
・消石灰　（・特号　・1号）
添加量　・　　kg/m3
（目標CBR　・3以上　・　　）
・ジオテキスタイル
単位面積質量　60g/m2以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数　・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・
試験
路床土の支持力比(CBR)試験　・行う　・行わない
路床締め固め度の試験　・行う　・行わない
現場CBR試験　・行う　・行わない

2 路盤

路盤の厚さ　・図示　・　(22.2.2、3、5)(表22.3.1)
路盤材料（標準仕様書(表22.3.1)による種別）
・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ　・粒度調整砕石　※ 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝG　※ 再生粒度調整砕石G
・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞG　・粒度調整鉄鋼ｽﾗｸﾞG　・水硬性粒度調整鉄鋼ｽﾗｸﾞG

3 アスファルト舗装

ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装の構成及び厚さ　・図示　・　(22.4.2)～(22.4.6)(表22.4.4)
材料
ｱｽﾌｧﾙﾄ　※ 再生ｱｽﾌｧﾙﾄG　標準仕様書(表22.4.1)による種類
・60～80　・80～100
・ｽﾄﾚｰﾄｱｽﾌｧﾙﾄ
骨材　・道路用砕石　・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ再生骨材G
加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の種類
・密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13)　・細粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13)
・密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13F)
ｼｰﾙｺｰﾄの乳剤の種別　・PK-1　・PK-2
舗装の平たん性　※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度
・
試験　ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

4 コンクリート舗装

ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装の構成及び厚さ　(22.5.2～4、6)(表22.5.1、3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装	車路及び駐車場	・図示	・図示　・150　・
	歩行者用通路	・図示	・図示　※ 70　・

材料
ｺﾝｸﾘｰﾄ　※ 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ、標準仕様書(表22.5.1)による
・以下による
ｺﾝｸﾘｰﾄの種類　・
設計基準強度(N/mm2)・
所定のｽﾗﾝﾌﾟ(cm)　・8　・
粗骨材の最大寸法　・
早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※ 低弾性ﾀｲﾌﾟ　・高弾性ﾀｲﾌﾟ
目地　※ 標準仕様書(表22.5.3)及び(図22.5.1)による
・以下による
種類　・　構造　・　間隔　・　m以内ごと
舗装の平たん性　※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

5 カラー舗装

・加熱系カラー舗装　(22.6.2～22.6.4)
構成、厚さ　・図示　・
加熱系混合物の結合材　・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加割合（　　%）
添加材　着色骨材（　　）　自然石（　　）
・常温系カラー舗装
工法　・ﾆｰﾄ工法　・塗布工法
着色部の下部　・ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装　・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装　・
舗装の平たん性　・通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

6 透水性アスファルト舗装

(22.7.2～22.7.3)(22.7.6)
舗装の構成及び厚さ　・図示　・
材料　骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材G
特記仕様書(表22.4. 1)による種類　・60～80　・80～100
舗装の平たん性　※ 著しい不陸がないもの　・
試験　開粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

7 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装G　(22.8.2～22.8.3)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
・普通平板（N） ・透水平板（P） ・保水性平板（M）	・300角 ・	※ 60	・砂 ・モルタル	・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

クッション材　・砂　・空練りモルタル
普通平板はG(再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水平板はG(透水性コンクリート)とする。ただし、調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする
仕上り面の平たん性　※ 歩行の支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする
・

・インターロッキングブロック舗装G　(22.8.2～22.8.3)

種類	厚さ(mm)	形状寸法	曲げ強度(N/mm2)	備考
※ 普通ﾌﾞﾛｯｸ(N) ・透水性ﾌﾞﾛｯｸ(P) ・保水性ﾌﾞﾛｯｸ(M)	車路 ・80 ・	・図示 ・	・5.0 ・	表面加工 ・ ・
※ 普通ﾌﾞﾛｯｸ(N) ・透水性ﾌﾞﾛｯｸ(P) ・保水性ﾌﾞﾛｯｸ(M)	歩行者用通路 ・60 ・	・図示 ・	・3.0 ・	張り方 ・ﾍﾘﾝﾎﾞﾝﾄﾞ ・ｽﾄﾚｯﾁｬｰﾎﾞﾝﾄﾞ ・図示

クッション材　・砂　・空練りモルタル
歩行者用通路に使用する普通ブロックG(再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水性ブロックはG(透水性コンクリート)とする
仕上り面の平たん性　・歩行の支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は3mm以内とする
・

・舗石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基礎	基層の厚さ(mm)
・花こう岩 ・	・割石 ・図示	・ ・	・うろこ張り ・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版	・70 ・
				・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	・50 ・

クッション材　・砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性　・歩行の支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする
・

8 砂利敷き

種別　※ A種　施工範囲・図示　・通路　・　(22.9.2)
※ B種　施工範囲・図示　・建物周囲その他　・

9 路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
・1種G	常温	液状	・白	・150	・1.5
・2種G	加熱		・黄	・100	・
・3種1号	溶融	粉体状	・	・	

低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料G

10 車止め

車止め用既製コンクリート W200×L600×H120 小型反射板付き
全面接着アンカー併用固定（彫込み30mm、埋込み65mm以上）

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験　・行う　・行わない　(23.1.3)
電気伝導度(EC)の試験　・行う　・行わない

2 植栽基盤の整備

樹木の植栽基盤の整備　・適用する　・適用しない　(23.2.2)(23.2.4)

植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・	樹高12m以上 ※ 100　・120　・150 樹高7m以上～12m未満 ※ 80　・100 樹高3m以上～7m未満 ※ 60　・80 樹高3m未満 ※ 50　・60	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
・芝、地被類	※ B種 ・	※ 20　・60	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

ただし、現状地盤より高さが上がる場合はD種とする
植栽基盤の排水設備　・設ける（・図示　・　　）
・設けない

3 植込み用土

・現場発生土の良質土　・客土　(23.2.3)

4 土壌改良剤

土壌改良剤の適用　・適用する　・適用しない　(23.2.3)
種別及び指定量等
・バーク堆肥G

使用量	植栽基盤面積1m3あたり（・50L　・　）
有機物の含有率(乾物)	70%以上
炭素窒素比(C/N比)	35以下
陽イオン交換容量(乾物)	70meq/100g以上
pH	5.5～7.5
水分	55～65%
幼植栽試験の結果	生育阻害その他の異常が認められない
窒素全量(現物)	0.5%以上
りん酸全量(現物)	0.2%以上
加里全量(現物)	0.1%以上

・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）
「金属等を含む産業廃棄物にかかる判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、食害試験の調査の結果、害が認められないものとする

使用量	植栽基盤面積1m2あたり（・10L　・　）
有機物の含有率(乾物)	35%以上
炭素窒素比(C/N比)	20以下
pH	8.5以下
水分	50%以下
窒素全量(現物)	0.8%以上
りん酸全量(現物)	1.0%以上
アルカリ分(現物)	15%以下

ただし、土壌の酸度を強制する目的で使用する場合はこの限りでない
施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合及び調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする

5 樹木

樹種、寸法、株立数等　・図示　・　(23.3.2)

6 支柱

支柱材　※ 丸太(間伐材)　・真竹　(23.3.2～23.3.3)
防腐処理方法　※ 加圧式防腐処理丸太材　・
形式　・図示　・

7 幹巻き用材料

材料　※ 幹巻き用テープ　・わら及びこも　(23.3.2)

8 芝

種類　・コウライシバ　・ノシバ　・　(23.4.2～23.4.3)
芝張りの工法
平地　※ 目地張り　・べた張り
法面　・目地張り　※ べた張り

9 種子吹付

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量(g/m²)	備考

10 地被類

(23.4.2)

樹　種	コンテナ経	単位面積当たりのコンテナ数	備考

11 屋上緑化G

植栽基盤及び材料

・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・図示　・
排水層　・軽量骨材（層の厚さ：　　）
・板状成形品
植込み用土　※ 改良土　・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立本数
・図示　・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
・図示　・
（品質・性能・試験方法）
建築材料等品質性能表による
支柱　・設置する（形式　・図示　・　　）
かん水装置　・設置する（種類　・　　）

12 樹木札

・図示による

年　度	設計年月	工事名	建築士法第20条第１項に基づく表示	図　面　名　称	縮　尺
		R8.5		特記仕様書（その12）	Ｎｏ．